

**Db2 照会報告書作成プログラム**  
バージョン 12 リリース 2

**QMF Z Client 入門**

**IBM**



**Db2 照会報告書作成プログラム**  
バージョン 12 リリース 2

**QMF Z Client 入門**

**IBM**

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、巻末にある『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Db2 12 for z/OS (5650-DB2) および IBM Db2 11 for z/OS (5615-DB2) の機能である IBM Query Management Facility (QMF) Z Client バージョン 12 リリース 2 に適用されます。この情報は、新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC27-9133-00  
Db2 Query Management Facility  
Version 12 Release 2  
Getting Started with QMF Z Client

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Rocket Software Inc. 2018

# 目次

この情報について . . . . .	v	BACKWARD コマンド . . . . .	30
この情報の対象読者 . . . . .	v	BATCH コマンド . . . . .	30
サービス更新およびサポート情報 . . . . .	v	BOTTOM コマンド . . . . .	31
<b>第 1 章 QMF 概説 . . . . .</b>	<b>1</b>	CHANGE コマンド . . . . .	31
QMF フィーチャー . . . . .	1	CHECK コマンド . . . . .	31
標準的な QMF ワークフローの概要 . . . . .	1	CLEAR コマンド . . . . .	32
QMF インターフェースの概要 . . . . .	1	CLOSE コマンド . . . . .	32
<b>第 2 章 設定値の設定 . . . . .</b>	<b>5</b>	CONNECT コマンド . . . . .	32
ファンクション・キーのカスタマイズ . . . . .	5	CONVERT コマンド . . . . .	33
ファンクション・キーのデフォルト値を復元 . . . . .	5	CREATE コマンド . . . . .	34
グローバル変数 . . . . .	6	DELETE コマンド . . . . .	35
ユーザー定義のグローバル変数を作成 . . . . .	6	DESCRIBE コマンド . . . . .	36
グローバル変数の編集 . . . . .	7	DISPLAY コマンド . . . . .	36
グローバル変数の削除 . . . . .	7	DRAW コマンド . . . . .	38
<b>第 3 章 データへのアクセス . . . . .</b>	<b>9</b>	EDIT コマンド . . . . .	38
リポジトリおよびデータ・ソース . . . . .	9	END コマンド . . . . .	39
リポジトリへの接続 . . . . .	9	ERASE コマンド . . . . .	39
データ・ソースへの接続 . . . . .	10	EXIT コマンド . . . . .	40
QMF オブジェクトへのアクセス . . . . .	10	EXPORT コマンド . . . . .	40
QMF オブジェクトの保存 . . . . .	10	FAVORITE コマンド . . . . .	45
フォルダーの操作 . . . . .	11	FORWARD コマンド . . . . .	46
<b>第 4 章 データの操作 . . . . .</b>	<b>13</b>	HELP コマンド . . . . .	46
照会の操作 . . . . .	13	IMPORT コマンド . . . . .	47
SQL エディターを使用して照会を作成 . . . . .	13	INSERT コマンド . . . . .	49
指示照会エディターを使用して照会を作成 . . . . .	13	ISPF コマンド . . . . .	50
既存の照会を実行 . . . . .	14	LEFT コマンド . . . . .	50
報告書の作成 . . . . .	15	LIMIT LOCAL コマンド . . . . .	51
プロシージャでの作業 . . . . .	17	LIST コマンド . . . . .	51
プロシージャの作成 . . . . .	17	MAIL TO コマンド . . . . .	53
既存のプロシージャを操作 . . . . .	18	REFRESH コマンド . . . . .	56
データベース表に対する作業 . . . . .	19	RENAME コマンド . . . . .	57
データベース表の編集 . . . . .	19	RESET コマンド . . . . .	57
バッチ・オブジェクトの操作 . . . . .	20	RESET GLOBAL コマンド . . . . .	59
バッチ・オブジェクトの作成 . . . . .	20	RESET KEY コマンド . . . . .	59
バッチ・オブジェクトの操作 . . . . .	22	RETRIEVE コマンド . . . . .	60
<b>付録 A. アクセシビリティ . . . . .</b>	<b>25</b>	RIGHT コマンド . . . . .	61
QMF Z Client でのアクセシビリティ . . . . .	25	RUN コマンド . . . . .	61
QMF Z Client でのナビゲーション . . . . .	25	RUNTSO コマンド . . . . .	64
<b>付録 B. トラブルシューティング . . . . .</b>	<b>27</b>	SAVE AS コマンド . . . . .	66
QMF トレース機能 . . . . .	27	SAVE コマンド . . . . .	69
QMF コマンドに割り込む . . . . .	28	SEARCH コマンド . . . . .	69
<b>付録 C. QMF コマンド . . . . .</b>	<b>29</b>	SET GLOBAL コマンド . . . . .	69
ACTIONS コマンド . . . . .	29	SET INVISIBLE コマンド . . . . .	70
ADD コマンド . . . . .	29	SET KEY コマンド . . . . .	70
		SET LOCAL コマンド . . . . .	71
		SET LOCAL WITH VALUES コマンド . . . . .	72
		SET OPTIONS コマンド . . . . .	72
		SHOW コマンド . . . . .	73
		SORT コマンド . . . . .	74
		SPECIFY コマンド . . . . .	75
		SWITCH コマンド . . . . .	76

TOP コマンド	77
TSO コマンド	77
USE REPOSITORY コマンド	78

**付録 D. システム・グローバル変数 . . . 79**

DSQQW グローバル変数	79
DSQAO グローバル変数	85
DSQEC グローバル変数	88
DSQDC グローバル変数	93
DSQCP グローバル変数	94

**付録 E. SQL エディターの行コマンド . . 95**

**付録 F. QMF 取扱コード . . . . . 97**

**付録 G. QMF 編集コード . . . . . 99**

**付録 H. QMF パネルの ID . . . . . 103**

**特記事項 . . . . . 109**

商標	110
----	-----

製品資料に関するご使用条件	111
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	111

**用語集 . . . . . 113**

**索引 . . . . . 115**

---

## この情報について

本書では、QMF™ Z Client アプリケーションの使用方法について説明します。<sup>1</sup>

本書の最新版については、以下の Db2® and IMS™ Tools Library ページを常に確認してください。

<http://www.ibm.com/software/data/db2imstools/db2tools-library.html>

---

## この情報の対象読者

この情報は、すべての QMF Z Client ユーザーを対象としています。

---

## サービス更新およびサポート情報

ソフトウェア・フィックスパック、PTF、よく尋ねられる質問 (FAQ)、技術情報、トラブルシューティング情報、ダウンロードなど、サービス更新およびサポート情報を検索するには、<http://www.ibm.com/software/data/qmf/support.html> を参照してください。

---

1. 本書全体をとおして、IBM® QMF Z Client クライアントを QMF と呼びます。





---

## 第 1 章 QMF 概説

---

### QMF フィーチャー

QMF Z Client ソリューションでは、メインフレーム・ユーザー用のビジネス・インテリジェンス機能のセットが提供されます。

#### リレーショナル照会

さまざまなスキル・レベルや知識レベルに合わせて調整された各種照会インターフェースによって、リレーショナル照会の作成が容易になります。

#### 報告書

QMF は、柔軟な報告書の設計環境を提供します。これにより、データのグループ化、集約、集計、計算式の追加、および照会結果に応じた報告書の条件付き書式設定を行うことが可能になります。

#### データ編集機能

QMF には、表に含まれる行全体や個々のセルを追加、削除、および変更できるようにする組み込みの表編集機能が備わっています。また、さまざまな作業を行うための高度なプロシージャを作成、編集、および実行することができます。

---

### 標準的な QMF ワークフローの概要

QMF を操作するときは、通常、以下の作業を行います。

#### リポジトリへの接続

データにアクセスできるようになるには、リポジトリに接続する必要があります。詳しくは、9 ページの『リポジトリへの接続』を参照してください。

#### データ・ソースへの接続

表、照会、プロシージャ、および他の QMF オブジェクトにアクセスできるようになるには、データ・ソースに接続する必要があります。詳しくは、10 ページの『データ・ソースへの接続』を参照してください。

#### 照会の作成

表に保管されているデータを処理するには、照会を作成して実行する必要があります。詳しくは、13 ページの『SQL エディターを使用して照会を作成』および 13 ページの『指示照会エディターを使用して照会を作成』を参照してください。

#### 報告書の作成

照会結果セットにあるデータを分かりやすく伝えるには、報告書を作成する必要があります。詳しくは、15 ページの『報告書の作成』を参照してください。

---

### QMF インターフェースの概要

QMF インターフェースの主なエレメントは以下のとおりです。

## コマンド行

コマンド行は画面の最下部にあります。QMF コマンドを発行してパネル間をナビゲートする場合に、コマンド行を使用します。コマンド行は、ご使用の端末エミュレーターがベクトル・グラフィックをサポートしていなければ、アプリケーションと対話するため基本手段です。この場合は、マウスをサポートするように端末を構成します。

入力するコマンドが長過ぎてコマンド行に収まらない場合は、別のパネル上で拡張コマンド行を開くことができます。これを行うには、「コマンド」という語の上にカーソルを置いて、Enter キーを押します。

QMF コマンドの完全なリストを表示するには、29 ページの『付録 C. QMF コマンド』を参照してください。

### 「Scroll」フィールド

「Scroll」に、スクロールのデフォルト値を示すデフォルト値を指定します。有効な値は以下のとおりです。

**1** から **9999** の範囲の数値

指定したページ数または行数をスクロールします。

**MAX** 末尾にスクロールします。

**HALF** 半ページ分スクロールします。

**PAGE**

1 ページ分スクロールします。

**DATA**

ページ末尾の直前の行までスクロールします。

**CSR** カーソルの位置に基づいてスクロールします。カーソルがスクロール可能域にある場合は、終わりまでスクロールします。カーソルがスクロール可能域の外側または終わりにある場合は、1 ページ分スクロールします。

## メッセージ行

メッセージ行は、画面下部のコマンド行のすぐ上にあります。メッセージ行には、通知メッセージ、警告メッセージ、およびエラー・メッセージが表示されます。

## ファンクション・キー

ファンクション・キーは、画面下部のメッセージ行の上にあります。ファンクション・キーは、ご使用のキーボード上にあるプログラマブル・ファンクション・キーに割り当てることができます。特定の QMF コマンドを実行するように各ファンクション・キーを構成できます。ファンクション・キーの構成については、5 ページの『ファンクション・キーのカスタマイズ』を参照してください。

## アクション・バー

アクション・バーは画面の上部に配置されています。これにより、アクション・バーを使用すれば、コマンド行に何も入力することなく特定のアクションを実行でき

ます。アクション・バー項目のリストはパネルによって異なる可能性があることに注意してください。

## コンテキスト・メニュー

一部の QMF パネルでは、オブジェクトを右クリックすることで、そのオブジェクトに対して実行できるアクションのリストを含むコンテキスト・メニューにアクセスできます。

### 「ホーム」パネル上の高速アクセス域

「ホーム」パネルでは以下の高速アクセス域を使用できます。

#### お気に入りのオブジェクト

「お気に入りのオブジェクト」パネルの内容が表示されます。「お気に入りのオブジェクト」パネルには、お気に入りのリストに追加されたオブジェクトのリストが表示されます。

#### お気に入りのアクション

「お気に入りのアクション」パネルの内容が表示されます。「お気に入りのアクション」パネルには、使用可能なお気に入りの QMF アクションのリストが表示されます。

#### 最近使用したオブジェクト

「最近使用したオブジェクト」パネルの内容が表示されます。「最近使用したオブジェクト」パネルには、最近使用されたオブジェクトのリストが表示されます。

いずれかの領域でオブジェクトを表示したりアクションを実行したりするには、操作するオブジェクトまたはアクションをクリックして **Enter** を押します。



---

## 第 2 章 設定値の設定

---

### ファンクション・キーのカスタマイズ

各 QMF パネルには定義済みのファンクション・キーのセットがあります。特定の QMF コマンドを実行するように、そのファンクション・キーを構成できます。

#### 手順

1. 作業対象にするパネルを開きます。
2. コマンド行で SHOW KEYS と入力します。
3. 「キー (Keys)」パネルで、カスタマイズするキーに対応する行の上にカーソルを置きます。
4. 「ラベル (Label)」フィールドにファンクション・キーの名前を入力します。名前がフィールドに収まらないほど長い場合は、「フィールドの表示」ファンクション・キーを押して「キー・エディター」パネルを開きます。
5. 「コマンド」フィールドに、キーに関連付ける QMF コマンドを入力します。コマンドがフィールドに収まらないほど長い場合は、「フィールドの表示」ファンクション・キーを押して「キー・エディター」パネルを開きます。
6. オプション: すべてのファンクション・キーをデフォルト値にリセットするには、コマンド行に `reset key(panelid=ID keyid=all` と入力します。ID は、リセットするファンクション・キーがあるパネルの ID です。この ID は、「パネルのキーを編集」フィールドで確認できます (括弧で囲まれています)。

注: QMF パネルとその ID の完全なリストを表示するには、103 ページの『付録 H. QMF パネルの ID』を参照してください。

7. 「終了」ファンクション・キーを押して変更を保存し、「キー (Keys)」パネルを閉じます。

### ファンクション・キーのデフォルト値を復元

- 1 つのパネルにあるすべてのファンクション・キーのデフォルト値を復元できます。

#### 手順

1. 作業対象にするパネルを開きます。
2. コマンド行で SHOW KEYS と入力します。
3. コマンド行で `reset key(panelid=ID keyid=all` と入力します。ID は、リセットされるファンクション・キーを持つパネルの ID です。この ID は、「パネルのキーを編集」フィールドで確認できます (括弧で囲まれています)。

注: QMF パネルとその ID の完全なリストを表示するには、103 ページの『付録 H. QMF パネルの ID』を参照してください。

---

## グローバル変数

QMF には、QMF セッション、QMF コマンド、およびパネル表示の多種多様な側面を制御するときに役立つ多くのグローバル変数があります。

QMF には 2 種類のグローバル変数があります。

### システム・グローバル変数

システム・グローバル変数はインストール時に作成されます。各システム・グローバル変数の名前は DSQ 接頭部で始まります。システム・グローバル変数は作成することも削除することもできません。できることはデフォルト値を変更することのみです。

システム・グローバル変数は、QMF セッション、QMF コマンド、およびパネル表示の多種多様な側面を制御する場合に使用します。例えば、現行データベースへの接続に使用されるユーザー ID を設定するには、DSQAO\_CONNECT\_ID システム・グローバル変数を使用します。

### ユーザー定義のグローバル変数

ユーザー定義のグローバル変数を作成できます。ユーザー定義のグローバル変数の値が永続的に存続するのか現行 QMF セッションにのみ適用されるのかを指定します。ユーザー定義のグローバル変数は作成することも編集することも削除することもできます。

ユーザー定義のグローバル変数は、システム・グローバル変数では対処されない QMF セッションの局面を制御する場合に使用します。

DSQEC\_USERGLV\_SAV システム・グローバル変数を使用すれば、すべてのシステム・グローバル変数をデフォルト値に復元し、ユーザー定義のグローバル変数をすべて削除できます。システム・グローバル変数について詳しくは、88 ページの『DSQEC グローバル変数』を参照してください。

以下のトピックでは、グローバル変数の操作について説明しています。

## ユーザー定義のグローバル変数を作成

ユーザー定義のグローバル変数を作成するには、「グローバル (Globals)」パネルを使用します。

### 手順

1. コマンド行で SHOW GLOBALS と入力します。
2. 「グローバル (Globals)」パネルで「追加」ファンクション・キーを押します。
3. 「大域変数の追加」パネルの「変数名」フィールドで、新しいグローバル変数の名前を入力します。ユーザー定義のグローバル変数とシステム・グローバル変数を混同しないように、DSQ 接頭部は使用しないでください。
4. 「変数値」フィールドで変数の値を入力します。
5. オプション: 「変数の説明」フィールドで変数の説明を入力します。
6. 「変数存続時間」フィールドで、変数が現行 QMF セッションの間だけ存続するのか永続的に存続するのかを指定します。
7. Enter を押してグローバル変数を作成します。

## グローバル変数の編集

システム・グローバル変数の名前は編集できません。ただし、デフォルト値はシステム・グローバル変数のデフォルト値であってもユーザー定義のグローバル変数のデフォルト値であっても編集できます。

### 手順

1. コマンド行で `SHOW GLOBALS` と入力します。
2. 「グローバル (Globals)」パネルで、編集する変数にカーソルを置きます。「フィールドの表示」ファンクション・キーを押します。
3. 「大域変数の表示」パネルの「変数名」フィールドおよび「変数値」フィールドを編集します。
4. オプション: 「変数の説明」フィールドで、説明を編集します。

注: PERMANENT に設定されている LIFETIME パラメーターを持つユーザー定義のグローバル変数に関しては、その説明を編集できます。

5. 「変数存続時間」フィールドで、変数が現行 QMF セッションの間だけ存続するのか永続的に存続するのかを指定します。
6. Enter キーを押して、変更を保存します。

## グローバル変数の削除

ユーザー定義のグローバル変数は削除できます。

### 手順

1. コマンド行で `SHOW GLOBALS` と入力します。
2. 「グローバル (Globals)」パネルで、削除する変数にカーソルを置きます。「削除」ファンクション・キーを押します。
3. 「プロンプト」パネルで「はい (Yes)」を選択します。Enter キーを押して、変数を削除します。





---

## 第 3 章 データへのアクセス

---

### リポジトリおよびデータ・ソース

QMF を操作するには、データ・ソースおよびアプリケーション・オブジェクトが保管されているリポジトリに接続する必要があります。

データ・ソースには、データベースへのアクセスに必要な接続情報が保管されます。リポジトリ内の各データ・ソースは、そのデータ・ソースが表すデータベースのタイプで分類されています。

**Hive** データは Apache Hive™ データウェアハウスに保管されます。この種のストレージは、SQL に類似した言語である HiveQL を利用して大量のデータを集計、照会、および分析するために設計されています。

#### JavaScript

データはオンライン・サービスによって提供され、JavaScript 表に保管されます。

#### QMF データ・サービス

データは QMF データ・サービス・サーバー上の表に保管されます。

#### リレーショナル

データは関連する表に格納されます。各表は、複数の列および行から構成されます。

**仮想** データは、情報がさまざまなソースから収集されて単一データベースとして提示される仮想表および JavaScript 表に保管されます。仮想データベースは、元のデータ・ソースを個別に参照しなくても操作できるように元のデータベースからデータをキャッシュに入れます。

---

### リポジトリへの接続

QMF を使用してリポジトリにアクセスしてリポジトリ・オブジェクトを実行するためには、リポジトリに接続する必要があります。リポジトリは、QMF 管理者によって作成された中央ストレージ域です。この領域は、照会、プロシージャ、書式、報告書などのオブジェクトを保存できる場所です。また、アクセスする必要のあるデータ・ソースへの接続に必要な情報を、QMF が探す場所でもあります。QMF セッションが開始されると、アプリケーションは使用可能なリポジトリ接続のリストの先頭にあるリポジトリに自動的に接続します。

#### 手順

1. 「ファイル」 > 「リポジトリの切り替え」をクリックします。
2. 「リポジトリの切り替え」パネルで、接続先とするリポジトリを選択します。

注: リポジトリ接続のプロパティを表示するには、対象のリポジトリにカーソルを置いて「説明」ファンクション・キーを押します。

3. Enter を押して指定のリポジトリに接続します。

注: 保護されたリポジトリに接続しようとする、そのリポジトリのユーザー資格情報を入力するように QMF から求められます。

---

## データ・ソースへの接続

QMF データ・ソースはデータベース表にデータを保管します。各データベース表は、複数の列および行から構成されます。QMF データ・ソースの照会は SQL で作成されます。

### 手順

1. 「ファイル」 > 「接続先」をクリックします。
2. 「接続先」パネルで、接続先とするデータ・ソースを選択します。
3. Enter を押して指定のデータ・ソースに接続します。

---

## QMF オブジェクトへのアクセス

現行データ・ソースで使用できる QMF オブジェクトのリストにアクセスするには、「オブジェクト・リスト」パネルを使用します。

### 手順

1. コマンド行で LIST ALL と入力します。
2. 「オブジェクト・リスト」パネルで「名前」フィールド、「タイプ」フィールド、および「所有者」フィールドを使用してリストをフィルターし、操作するオブジェクトを見つけます。
3. リストをソートするには、「ソート (Sort)」ファンクション・キーを押し、適用するソート順序を指定して、Enter を押します。
4. 日付でリストをフィルターするには、「作成日」フィールドおよび「変更日」フィールドを使用します。構文 [ >, <, =] N [d, m, y] を使用します。N は日数 (d)、月数 (m)、または年数 (y) です。例えば、過去 5 日以内に作成されたオブジェクトを表示するには、「作成日」フィールドに <5d と入力します。
5. オブジェクトに対応する「アクション」フィールドで、オブジェクトに対して実行するコマンドを入力するか、またはそのフィールドを右クリックして、使用可能なコマンドのリストを表示します。QMF コマンドについて詳しくは、29 ページの『付録 C. QMF コマンド』を参照してください。

---

## QMF オブジェクトの保存

アクション・バーを使用すれば、QMF オブジェクトをデータベースに保存できます。これは、SAVE コマンドや SAVE AS コマンドを使用することと同じです。

### このタスクについて

オブジェクトを保存するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 操作対象のオブジェクトが既にデータベースに保存されていて、最新の変更のみを保存したい場合は、アクション・バーの「ファイル」 > 「保存 (Save)」をクリックして、残りの手順をスキップします。

2. オブジェクトをデータベースに保存する場合は、アクション・バーの「ファイル」 > 「別名保存」をクリックします。「コマンド・プロンプト」パネルが開きます。
3. 「オブジェクト名」フィールドに、オブジェクトの名前を指定します。大文字と小文字の両方やスペースが含まれている名前は二重引用符で囲みます。
4. オプション: 「コメント (Comment)」フィールドでオブジェクトの注釈を指定します。
5. オプション: 「進む」ファンクション・キーを押してパネルの後半部分を表示します。
6. 「確認」フィールドで、オブジェクトの変更を保存したりオブジェクトを置換したりするときに確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。
7. オプション: 「フォルダー」フィールドで、オブジェクトへのリンクを保存するフォルダーを指定します。

注: QMF フォルダーには、データベースに保管されている QMF オブジェクトへのリンクが含まれているだけです。実際のオブジェクトが含まれているわけではありません。

8. オプション: 「共有」フィールドで、保存済みオブジェクトを他のユーザーが使用できるようにするかどうかを指定します。有効値は YES および NO です。
9. Enter キーを押して、オブジェクトを保存します。

---

## フォルダーの操作

QMF Z Client では、ワークスペース・フォルダーにはオブジェクトまたは他のフォルダーが格納されます。一方、QMF カタログ・フォルダーにはオブジェクトへのリンクが格納されます。

### このタスクについて

標準的な QMF ワークフローでは、フォルダーの操作時に以下の順序の操作が示されます。

### 手順

1. コマンド行で `list folders` と入力し、現行データ・ソースで使用できるフォルダーのリストにアクセスします。
2. フォルダーを開くには、フォルダーの近くにある「アクション」フィールドに `sel` と入力します。
3. `HOME:/<location>/<folder name>` フィールドにあるフォルダー名をクリックして親フォルダーに戻るか、またはロケーション名をクリックしてそのロケーションのオブジェクトのリストを表示します。



---

## 第 4 章 データの操作

---

### 照会の操作

リレーショナル・データ・ソースにある情報を要求するには、SQL エディターまたは指示照会エディターを使用して照会を作成します。

以下のトピックでは、QMF 照会の操作について説明しています。

#### SQL エディターを使用して照会を作成

SQL エディターを使用して照会を作成し、リレーショナル・データ・ソースに対して照会を実行します。

##### 手順

1. 照会エディターを開くには、コマンド行で CREATE QUERY と入力します。Enter キーを押します。
2. エディター域にカーソルを置きます。
3. 1 つ以上の SQL ステートメントを入力します。複数のステートメントを区切るには、セミコロン (;) を使用します。

注: エディター域で行を挿入、削除、コピー、および位置変更するには、95 ページの『付録 E. SQL エディターの行コマンド』を参照してください。

4. 「実行」ファンクション・キーを押して照会を実行し、結果セットを表示します。
5. 照会結果セットが表示されたら、以下の操作を実行できます。

注: 照会に複数の SQL ステートメントが含まれる場合に、特定の結果セットを表示するには、「照会」 > 「結果セットの指定」をクリックします。

#### 指示照会エディターを使用して照会を作成

SQL ステートメントを入力することなく照会を作成するには、指示照会エディターを使用します。

##### 手順

1. コマンド行で RESET QUERY (LANG=PROMPTED と入力し、Enter キーを押します。
2. 「表」パネルで以下の手順を実行し、照会に追加する 1 つ以上の表を指定します。
  - a. 「表の所有者」フィールドに、作業対象にする表の所有者を指定します。
  - b. 「表の名前」フィールドに、作業対象にする表の名前を指定します。

注: 指定した所有者に属するすべての表のリストを表示するには、「リスト」ファンクション・キーを押します。

- c. 「追加」ファンクション・キーを押して表を照会に追加します。

- d. この手順を、照会に組み込む表ごとに繰り返し、「取消し (Cancel)」ファンクション・キーを押して変更を保存します。

追加の表を指定するたびに、「結合」パネルを使用して結合オプションを指定します。

3. オプション: 照会結果セットに組み込む列のリストをカスタマイズするには、以下の手順を実行します。
  - a. カーソルを「列」領域に置いて「挿入」ファンクション・キーを押します。
  - b. 「列」パネルで「リスト」ファンクション・キーを押して、使用可能な表の列のリストを表示します。
  - c. 「列リスト」パネルで、照会結果セットに組み込む列にカーソルを置いて「追加」ファンクション・キーを押します。
  - d. 結果セットに組み込む列ごとに上記手順を繰り返します。
  - e. 「取消し (Cancel)」ファンクション・キーを押して変更を保存します。
4. オプション: 照会の行条件を指定するには、以下の手順を実行します。
  - a. メイン・エディター・パネルで「切り替え」ファンクション・キーを押し、「行条件」領域および「ソート条件」領域を表示します。
  - b. カーソルを「行条件」領域に置いて「挿入」ファンクション・キーを押します。
  - c. 「行条件」パネルで、フィルター対象の行を持つ列を選択するか、または「式」フィールドに式を入力します。Enter キーを押します。
  - d. 「比較演算子」パネルで、使用する比較演算子を指定します。Enter キーを押します。
  - e. 次のパネルで、選択した比較演算子の値を指定します。Enter キーを押して、変更を保存します。
5. オプション: 照会に対してソート条件を指定するには、以下の手順を実行します。
  - a. カーソルを「ソート条件」領域に置いて「挿入」ファンクション・キーを押します。
  - b. 「行条件」パネルの「順序」フィールドで、照会結果セットに適用するソート順序を指定します。
  - c. 「列を選択するか、または式を入力します」フィールドで、結果セットのフィルター基準とする列を選択するか、または式を入力します。Enter キーを押して、変更を保存します。
6. 「実行」ファンクション・キーを押して照会を実行します。

## 既存の照会を実行

既存の QMF 照会のリストにアクセスし、各照会を再実行、編集、または削除できます。

### このタスクについて

このトピックでは、既存の照会を手動で実行する方法について説明します。照会を無人で (すなわち、アプリケーションと対話することなく) 実行するには、QMF をバッチ・モードで使用します。バッチ・モードで QMF を使用方法について詳

しくは、20 ページの『バッチ・オブジェクトの操作』を参照してください。

## 手順

1. コマンド行で LIST QUERIES と入力し、Enter キーを押します。
2. 「オブジェクト・リスト」パネルの「名前」フィールドと「所有者」フィールドを使用して、リストをフィルターし、操作する照会を見つけます。
3. その照会に対応する「アクション」フィールドでコンテキスト・メニューにアクセスし、以下のいずれかのアクションを選択します。

実行 これは照会を実行します。

表示 これは照会を表示します。

編集 これは、照会を編集できる照会エディターを開きます。

お気に入りに追加

これは照会をお気に入りリストに追加します。

説明 これは、照会メタデータを表示したりコメントを入力したりできるパネルを開きます。

名前変更

これは、照会名を変更できるパネルを開きます。

消去 これは照会を削除します。

---

## 報告書の作成

照会の実行後または表の表示後に、書式エディターを使用して、結果セットに基づく報告書を作成します。

### このタスクについて

報告書の各種側面を構成するには、書式エディター・パネルを使用します。

「Form.Main」パネルでは報告書の一般設定を指定できます。その他の Form パネルでは詳細設定を指定できます。特定の Form パネルを表示するには、「表示」をクリックして、操作するパネルを選択します。以下の Form パネルが使用可能です。

#### Form.Break

報告書の切れ目オプションを指定します。報告書用に最大 6 つの切れ目レベルを構成し、レベルごとに異なる切れ目オプションを指定できます。各切れ目レベル・オプション・セットを、対応する「Form.Break」パネル（「Form.Break1」から「Form.Break6」まで）で指定します。

#### Form.Calculations

報告書の計算を指定します。

#### Form.Columns

報告書に組み込む列を操作をします。

#### Form.Conditions

報告書の条件式を指定します。

#### Form.Detail

報告書の明細ブロック・オプションを指定します。

### Form.Final

報告書の末尾に表示するテキストを指定します。

### Form.Options

報告書の詳細な形式設定オプションを指定します。

### Form.Page

報告書のページの見出しおよび脚注を指定します。

## 手順

1. コマンド行で CREATE FORM と入力し、書式エディターの「Form.Main」パネルを開きます。ここで報告書の一般設定を指定できます。  
  
以前に報告書のデータ・ソース・オブジェクトを指定したことがある場合は、ステップ 2 をスキップして、ステップ 3 に進みます。
2. 報告書のデータ・ソース・オブジェクトを指定するには、以下の手順を実行します。
  - a. 「書式」 > 「データ・ソース・オブジェクト」をクリックします。
  - b. 「データ・ソース・オブジェクト」パネルで、リポジトリにあるオブジェクトを使用するのか、データ・ソースにあるオブジェクトを使用するのかを指定します。Enter キーを押します。
  - c. 作業対象にするオブジェクトを指定し、Enter キーを押します。
3. 「番号」フィールドで、照会結果セットにおける列の配置順序を表示します。
4. 「列見出し」フィールドに報告書の列の見出しを入力します。デフォルトでは、結果セットの列見出しが使用されます。
5. オプション: 「使用法」フィールドに各列の取扱コードを入力します。QMF 取扱コードについて詳しくは、97 ページの『付録 F. QMF 取扱コード』を参照してください。
6. オプション: 「列間隔」フィールドに、列の前に挿入するスペースの数を入力します。デフォルト値は結果セットから取得されます。
7. オプション: 「幅」フィールドに列の幅を入力します。デフォルト値は結果セットから取得されます。
8. 「編集」フィールドに列の編集コードを入力します。QMF 編集コードについて詳しくは、99 ページの『付録 G. QMF 編集コード』を参照してください。
9. 「順序」フィールドに、報告書における列の順序を入力します。
10. 「ページ見出し (Page heading)」フィールドおよび「ページ脚注 (Page footing)」フィールドで報告書の見出しおよび脚注のテキストを指定します。
11. 「最終テキスト」フィールドに、報告書の末尾に表示するテキストを入力します。
12. 「切れ目 1 (Break 1)」フィールドおよび「切れ目 2 (Break 2)」フィールドに、報告書の切れ目に配置するテキストを入力します。
13. 「オプション」フィールドの「枠取り」チェック・ボックスを使用して、報告書の枠取りオプションを有効にするかどうかを指定します。



14. 「デフォルト切れ目テキスト」チェック・ボックスを使用して、報告書の切れ目レベルにデフォルトのテキストを挿入するかどうかを指定します。デフォルト切れ目テキストは 1 つから 6 つまでのアスタリスク (\*) からなるストリングです。

「Form.Main」パネルでは報告書の一般設定を指定できます。その他の Form パネルでは詳細設定を指定できます。特定の Form パネルを表示するには、「表示」をクリックして、操作するパネルを選択します。以下の Form パネルが使用可能です。

#### **Form.Break**

このパネルを使用して、報告書の切れ目オプションを指定する場合に使用します。報告書に最大 6 つの切れ目レベルを構成し、レベルごとに異なる切れ目オプションを指定できます。切れ目レベルごとのオプションを、対応する「Form.Break」パネル（「Form.Break1」から「Form.Break6」まで）で指定できます。

#### **Form.Calculations**

このパネルを使用して、報告書の計算式を指定する

#### **Form.Columns**

このパネルを使用して、報告書に含める照会結果セットの列を操作する

#### **Form.Conditions**

このパネルを使用して、報告書の条件式を指定する

#### **Form.Detail**

このパネルを使用して、報告書の明細ブロック・オプションを指定する

#### **Form.Final**

このパネルを使用して、報告書の末尾に表示するテキストを設定する

#### **Form.Options**

このパネルを使用して、報告書の詳細形式設定オプションを指定する場合に使用します。

#### **Form.Page**

このパネルを使用して、報告書のページの見出しおよび脚注を指定する

---

## プロシージャでの作業

1 つの RUN コマンド内で一連の QMF コマンドを実行したり、他のアプリケーションを呼び出したり、QMF をバッチ・モードで開始したりするには、プロシージャを使用します。

以下のトピックでは、プロシージャの操作について説明しています。

### プロシージャの作成

一連の QMF コマンドを実行するプロシージャを作成するには、プロシージャ・エディターを使用します。

## 始める前に

オブジェクトの実行がプロシージャに含まれる場合は、そのプロシージャに関して作業を開始する前に必ず、そのオブジェクトを作成して保存してください。

### 手順

1. コマンド行で CREATE PROC と入力し、Enter キーを押します。
2. 「エディター」パネルで 1 つ以上の QMF コマンドを入力します。

注: コマンドが長すぎて 1 行に収まらない場合は、+ 文字で行を終了し、次の行にコマンドを続けます。以下の例を考慮してください。

```
show
+query
```

3. 「実行」ファンクション・キーを押してプロシージャを実行します。

## 既存のプロシージャを操作

プロシージャのリストにアクセスし、各プロシージャを実行したり編集したりできます。

### 手順

1. コマンド行で LIST PROC と入力し、Enter キーを押します。
2. 「オブジェクト・リスト」パネルの「名前」フィールドと「所有者」フィールドを使用して、リストをフィルターし、操作するプロシージャを見つけます。
3. そのプロシージャに対応する「アクション」フィールドでコンテキスト・メニューにアクセスし、そのプロシージャに対して実行するアクションを選択します。

実行 これはプロシージャを実行します。

表示 これはプロシージャを表示します。

編集 これは、プロシージャを編集できるプロシージャ・エディターを開きます。

お気に入りに追加

これは、プロシージャをお気に入りリストに追加します。

説明 これは、プロシージャ・メタデータを表示したりコメントを入力したりできるパネルを開きます。

名前変更

これは、プロシージャ名を変更できるパネルを開きます。

消去 これはプロシージャを削除します。

注: プロシージャを無人で (すなわち、アプリケーションと対話することなく) 実行するには、QMF をバッチ・モードで使用します。バッチ・モードで QMF を使用する方法については詳しくは、20 ページの『バッチ・オブジェクトの操作』を参照してください。

---

## データベース表に対する作業

データベース表を表示、編集、保存、消去、またはエクスポートするには、SQL を使用します。

### 手順

1. コマンド行で LIST TABLES と入力し、Enter キーを押します。
2. 「オブジェクト・リスト」パネルの「名前」と「所有者」を使用して、リストをフィルターし、操作する表を見つけます。
3. 「アクション」フィールドでコンテキスト・メニューにアクセスし、以下のいずれかのアクションを選択します。

**表示** これは、表を「結果」パネルに表示します。このパネルでは、表を表示したり、表を使用して照会や報告書を作成したりできます。照会の作成について詳しくは、13 ページの『SQL エディターを使用して照会を作成』を参照してください。報告書の作成について詳しくは、15 ページの『報告書の作成』を参照してください。

**編集** これは、表を編集できる表エディターを開きます。表の編集について詳しくは、『データベース表の編集』トピックを参照してください。

**お気に入りに追加**

これは表をお気に入りリストに追加します。

**説明** これは、表メタデータを表示したりコメントを入力したりできるパネルを開きます。

**名前変更**

これは、表を名前変更できるパネルを開きます。

**消去** これは表を削除します。

## データベース表の編集

データ・ソースにおいて自分がアクセスできるデータベース表は編集できます。

### このタスクについて

データベース表を編集するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. コマンド行で EDIT *t\_owner.t\_name* と入力します。*t\_owner* は表の所有者の名前です。*t\_name* は表の名前です。Enter キーを押します。

**注:** 編集対象の表が、自分がログインに現在使用しているユーザー・アカウントに属する場合は、表の所有者をコマンドから省略できます。

2. オプション: デフォルトでは、編集作業の内容はすべて自動的に保存およびコミットされます。複数の編集を行うときに、意図しないコミットを避けるには、「表」 > 「即時コミットを無効にする」をクリックします。

**注:** 表に対してコミットされていない変更はアスタリスク (\*) でマークされません。

3. オプション: 操作する行を素早く見つけるには、以下の手順を実行します。

- a. 「検索」ファンクション・キーを押します。
  - b. 「検索」パネルで、操作する行の検索情報を指定し、Enter を押します。
4. 行を編集するには、以下の手順を実行します。
    - a. カーソルを行に置いて「変更」ファンクション・キーを押します。
    - b. 「行の編集」パネルで必要な編集を行い、Enter を押します。
  5. 新規の行を挿入するには、以下の手順を実行します。
    - a. 「追加」ファンクション・キーを押します。
    - b. 「行の追加」パネルで、各セルに適切な情報を入力して、Enter を押します。
  6. 行を削除するには、カーソルを行に置いて「削除」ファンクション・キーを押します。
  7. 「即時にコミット」オプションをステップ 2 (19 ページ) で無効にした場合は、表の編集の終了時に以下のいずれかの操作を実行できます。
    - 編集内容を保存するには、「表」 > 「コミット」をクリックします。
    - 編集内容を取消するには、「表」 > 「ロールバック」をクリックします。

---

## バッチ・オブジェクトの操作

バッチ・オブジェクトとは、JCL バッチ・ジョブを作成するためのパラメーターのセットです。これを使用して、QMF の照会およびプロシーチャーをバックグラウンド・モードで実行します。

以下のトピックでは、バッチ・ジョブの操作について説明しています。

### バッチ・オブジェクトの作成

バッチ・オブジェクトを作成するには、バッチ・ウィザードを使用します。

#### このタスクについて

バッチ・オブジェクトを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. コマンド行で BATCH と入力し、Enter キーを押します。
2. 「追加」ファンクション・キーを押します。
3. 「バッチ・ウィザード - メイン・パラメーター」パネルで、以下の手順を実行します。
  - a. 「バッチ・オブジェクト名」フィールドに、オブジェクトの名前を入力します。
  - b. 「バッチ PROC 名」フィールドで、使用するバッチ・プロシーチャーの絶対パスを指定します。
  - c. オブジェクトを作成するのか既存のオブジェクトを使用するのかを指定します。
    - 照会用のバッチ・プロシーチャーを作成するには、「照会用のバッチ PROC を作成」を選択します。その後で、ステップ 4 に進みます。

- プロシージャー用のバッチ・プロシージャーを作成するには、「PROC 用のバッチ PROC を作成」オプションを選択します。その後、ステップ 5 に進みます。
  - 既存のバッチ・プロシージャーを使用するには、「既存のバッチ PROC を使用」オプションを選択します。
- d. 「次へ」ファンクション・キーを押して、次のウィザード・パネルを開きます。
4. 「バッチ・ウィザード - 照会のパラメーター (Batch Wizard - Parameters for QUERY)」で、以下の手順を実行します。
- a. 「照会名」フィールドで、バッチ・オブジェクトに使用する照会の名前を入力します。エディターで現在開いている照会を使用する場合は、「作業域からの照会を使用」オプションを選択します。作業域で複数のオブジェクトが開かれている可能性があることに注意してください。「作業域からの照会を使用」オプションを選択すると、最後に開かれた照会が使用されます。また、「作業域からの照会を使用」チェック・ボックスが選択された場合は、現在開かれている照会が、「オブジェクト名」フィールドで指定されている名前で保存されることにも注意してください。
  - b. 「書式名」フィールドで、バッチ・オブジェクトに使用する書式の名前を入力します。エディターで現在開いている書式を使用する場合は、「作業域からの書式を使用」オプションを選択します。作業域で複数のオブジェクトが開かれている可能性があることに注意してください。「作業域からの書式を使用」オプションを選択すると、最後に開かれた書式が使用されます。また、「作業域からの書式を使用」チェック・ボックスが選択された場合は、現在開かれている書式が、「オブジェクト名」フィールドで指定されている名前で保存されることにも注意してください。
  - c. 「結果データを保存する表の名前」フィールドで、結果ファイルの名前と、その保存場所の絶対パスを指定します。
  - d. 「次へ」ファンクション・キーを押して、次のウィザード・パネルを開きます。
5. 「バッチ・ウィザード - PROC のパラメーター (Batch Wizard - Parameters for PROC)」パネルで、以下の手順を実行します。
- a. 「PROC 名」フィールドで、バッチ・オブジェクトに使用するプロシージャーの名前を指定します。エディターで現在開いているプロシージャーを使用する場合は、「作業域からの PROC を使用」オプションを選択します。作業域で複数のオブジェクトが開かれている可能性があることに注意してください。「作業域からの PROC を使用」オプションを選択すると、最後に開かれたプロシージャーが使用されます。
  - b. 「次へ」ファンクション・キーを押して、次のウィザード・パネルを開きます。
- 「バッチ・ウィザード - 報告書パラメーター」パネルが開きます。このパネルで、報告書の送信先 E メール・アドレスを指定する 報告書を E メールで送信したくない場合は、「次へ」ファンクション・キーを押して、ステップ 8 に進みます。
6. 「バッチ・ウィザード - 報告書パラメーター」パネルで、以下の手順を実行します。

- a. 「報告書の送信先 E メール (**Emails to send REPORT**)」フィールドで、報告書の送信先 E メール・アドレスを 1 つ以上指定します。
  - b. 「送信元」フィールドで送信者の E メール・アドレスを指定します。
  - c. 「件名」フィールドで Eメールの件名を入力します。
  - d. 「報告書タイプ」フィールドで、Eメールの送信前に報告書を変換する形式を指定します。有効値は、TEXT、PDF、および HTML です。このフィールドをブランクのままにしておいた場合、報告書は自動的にテキスト形式に変換されます。
  - e. 「次へ」ファンクション・キーを押して、次のウィザード・パネルを開きます。
7. 「バッチ・ウィザード - SMTP 設定」パネルで、以下の手順を実行します。
    - a. 「**SMTP** サーバー」フィールドで、使用する SMTP サーバーのアドレスを入力します。
    - b. 「ポート」フィールドで、使用するサーバー・ポートの番号を入力します。
    - c. 「ユーザー」フィールドおよび「パスワード」フィールドで **QMF Z Client** ユーザー資格情報を指定します。
    - d. 「次へ」ファンクション・キーを押して、次のウィザード・パネルを開きます。
  8. 「バッチ・ウィザード - 共通パラメーター」パネルで、以下の手順を実行します。
    - a. 別のユーザーの代わりにバッチ・ジョブを実行する場合は、「バッチ・ジョブのための **TSO** ログイン」フィールドおよび「バッチ・ジョブのための **TSO** パスワード」フィールドを使用して、バッチ・ジョブの実行に使用するユーザーのログイン情報を指定します。
    - b. 「データベースにログイン」フィールドおよび「データベースへのパスワード」フィールドを使用して、操作対象となるデータベースへの接続に使用するユーザー資格情報を指定します。
    - c. 「リポジトリの名前」フィールドで、操作対象となるリポジトリの名前を確認します。
    - d. 「リポジトリにログイン」フィールドおよび「リポジトリへのパスワード」フィールドを使用してリポジトリのログイン情報を指定します。
    - e. 「データ・ソースの名前」フィールド、「データ・ソースにログイン」フィールド、および「データ・ソースへのパスワード」フィールドを使用して、操作対象となるデータ・ソースとそのログイン情報を指定します。
    - f. Enter キーを押して、バッチ・オブジェクトを作成します。

## バッチ・オブジェクトの操作

既存の QMF バッチ・オブジェクトを実行、編集、または削除します。

### 手順

1. コマンド行で BATCH と入力し、Enter キーを押します。
2. 「バッチ・リスト」パネルで操作対象のバッチ・オブジェクトにカーソルを置いて、以下のいずれかのファンクション・キーを押します。

#### サブミット

これは、指定されたバッチ・オブジェクトを実行します。

#### 編集

これは、指定されたオブジェクトをバッチ・ウィザードで開きます。このウィザードで、そのオブジェクトを編集できます。オブジェクトを編集することは、オブジェクトを作成することと似ています。バッチ・オブジェクトの作成について詳しくは、20 ページの『バッチ・オブジェクトの作成』を参照してください。

#### 追加

これはバッチ・オブジェクトを作成します。バッチ・オブジェクトの作成について詳しくは、20 ページの『バッチ・オブジェクトの作成』を参照してください。

#### 削除 (Remove)

これは、指定されたバッチ・オブジェクトを削除します。

#### JCL エクスポート

これは、指定されたバッチ・オブジェクトを TSO データ・セットまたは UNIX ファイルにエクスポートします。





---

## 付録 A. アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。

---

### QMF Z Client でのアクセシビリティ

QMF Z Client には、いくつかのアクセシビリティ機能が組み込まれています。

QMF Z Client のアクセシビリティ機能により、ユーザーは以下の操作を行うことができます。

- 画面読み上げ機能および画面拡大機能などの支援機能の使用この支援機能を使用して z/OS® インターフェースにアクセスする場合、その特定情報については支援機能の資料を参照してください。
- 色やフォント・サイズなど、表示属性のカスタマイズ
- キーボードのみを使用して、特定の機能または画面を使用したのと同等の機能を実行。ISPF インターフェースへのアクセスについては、以下の資料を参照してください。
  - z/OS ISPF User's Guide, Volume 1
  - z/OS TSO/E Primer
  - z/OS TSO/E User's Guide

---

### QMF Z Client でのナビゲーション

QMF パネル間をナビゲートするために使用できる方法は、ご使用の端末エミュレーターがベクトル・グラフィックをサポートしているかどうかによって異なります。

マウスとキーボードを使用している場合は、アクション・バー項目をクリックして QMF パネル間をナビゲートできます。一部のアクション (「ホーム」パネルからお気に入りのリストや最近使用したオブジェクトにアクセスするなど) を実行するには、アクセスする項目にカーソルを置いて Enter を押す必要があります。

キーボードのみを使用している場合は、コマンド行および特定 QMF コマンドを使用してパネル間をナビゲートします。アクション・バーにアクセスするには、ACTIONS X コマンドを入力します。X は、アクション・バー項目の名前に含まれる下線付きの文字です。

一部の QMF パネルでは、+ 文字および > 文字がクリック可能になっています。+ 文字は、そのフィールドで LIST コマンドがサポートされることを示します。+ 文字をクリックすることは、「リスト」ファンクション・キーを押すことと同じです。> 文字は、そのフィールドを別のパネルで開くことができることを示します。> 文字をクリックすることは、「フィールドの表示」ファンクション・キーを押すことと同じです。



---

## 付録 B. トラブルシューティング

QMF で発生したと考えられる問題を診断して訂正します。

---

### QMF トレース機能

QMF には、ユーザー・セッションで QMF アクティビティーをトレースする手段が用意されています。トレース出力は、不正確な出力、足りない出力、パフォーマンス問題、ループなど、エラーを分析するときに役立つ可能性があります。このセクションでは、トレース出力のストレージ・データ・セットを割り振る方法、この機能を開始する方法、および診断用のトレース・データを表示する方法を示します。

#### トレース・データ・セットの割り振り

トレース情報は FQMDEBUG データ・セット (トレース専用) に記録されます。QMF セッションを開始する前に、このデータ・セットを自動的に、または手動で割り振る必要があります。

データ・セットが自動的に割り振られるかどうかを判別するには、TSO 管理者に連絡してください。データ・セットを手動で割り振るには、診断セッションのために QMF を開始する前に次の TSO ステートメントを発行します。

```
ALLOC DDNAME(FQMDEBUG) SYSOUT(A) RECFM(F B A) LRECL(121)
```

#### QMF アクティビティーのトレース

1. FQMDEBUG という DD 名のデータ・セットを割り振ります。
2. DSQSDEBUG パラメーターを使用して QMF Z Client を開始します。このパラメーターの値によってトレース出力の詳細レベルが決まります。有効な値は以下のとおりです。

**ALL** QMF 初期化中に発生する可能性があるプログラム障害など、QMF アクティビティーが最大詳細レベルでトレースされます。トレース出力が 32,767 行を超える場合は、その出力を保持するために一時データ・キューを使用する必要があります。

#### NONE

QMF アクティビティーのトレースは行われません。

**X** QMF Z Client 内部デバッグ・トレースが有効になります。この値を使用する場合は、トレース出力の詳細レベルを指定します。中レベルの詳細には、X1 を指定します。最大レベルの詳細には、X2 を指定します。

**L** QMF Z Client のメッセージおよびコマンドがトレースされます。この値を使用する場合は、トレース出力の詳細レベルを指定します。すべてのメッセージを記録するには L1 を指定します。すべての L1 レコードと、QMF コマンドの実行を記述する追加レコードを記録するには、L2 を指定します。ユーザーが発行した各コマンドと、そのコマンドに対する QMF の応答を記録するには、L2 値を使用します。

X1、X2、L1、および L2 の値を任意に組み合わせて使用すれば、さまざまなレベルの詳細がトレース出力で提供されます。

## トレース出力の印刷または表示

FQMDEBUG データ・セットを印刷用に割り振るには、次のステートメントを発行します。

```
FREE FILE(FQMDEBUG)
ATTR DEBUG RECFM(F B A) LRECL(121)
ALLOC DDNAME(FQMDEBUG) SYSOUT(A) USING(DEBUG)
```

割り振られたデータ・セットには 121 文字のレコードが含まれます。各レコードの先頭文字は ANSI 紙送り制御文字です。トレース情報は、ANSI 紙送り制御文字を含めずに、行あたり 120 文字に形式設定されます。

FQMDEBUG データ・セットからの出力を割り振って HOLD キューに送信する場合は、次の TSO コマンドを発行して OUTPUT キューへの出力を解放します。

```
FREE DDNAME(FQMDEBUG)
```

オンライン・エディターを使用して表示可能な順次データ・セットとして FQMDEBUG データ・セットを割り振るには、次のステートメントを発行します。

```
FREE FILE(FQMDEBUG)
ATTR DEBUG RECFM( F B A) LRECL(81)
ALLOC DDNAME(FQMDEBUG) DSNAME(DEBUG.LIST) NEW KEEP
```

割り振られたデータ・セットは 81 文字のレコードで構成されています。各レコードの先頭文字は ANSI 紙送り制御文字です。トレース情報は、ANSI 紙送り制御文字を含めずに、行あたり 80 文字に形式設定されます。

---

## QMF コマンドに割り込む

実行中の QMF コマンドに割り込むには、アテンション機能を使用します。

TSO では、QMF コマンドが非アクティブであっても、QMF 割り込みハンドラーをアクティブ化できます。QMF に割り込むには、Attn キーを押します。

---

## 付録 C. QMF コマンド

---

### ACTIONS コマンド

ACTIONS コマンドは、コマンド行からアクション・バー項目にアクセスする場合に使用します。

#### 構文

```
>>--Actions+-----+<<
          +-value+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

#### パラメーター

特定のアクション・バー項目を展開するには、アクション・バー項目名の下線付き文字をコマンド値として指定した ACTIONS コマンドを使用します。値を指定せずに ACTIONS コマンドを使用すると、特定の項目が展開されずにカーソルがアクション・バーに置かれます。

#### 例

##### ACTIONS F

アクション・バーの「ファイル」項目を展開します。

**AC F** こちらもアクション・バーの「ファイル」項目を展開します。

##### ACTIONS V

アクション・バーの「表示」項目を展開します。

---

### ADD コマンド

ADD コマンドは、特定の QMF パネルでオブジェクトを作成する場合に使用します。

#### 構文

```
>>--ADd--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

#### パラメーター

ADD コマンドを「グローバル」パネルで使用して新しいグローバル変数を定義するか、表エディターで使用して行をデータベース表に追加します。

#### 例

ADD

AD

---

## BACKWARD コマンド

BACKWARD コマンドは、スクロール可能域を上方向にスクロールするために使用します。

### 構文

```
>>--BACKward-----+-----+--<<
                        +--value--+
                        +--Max-----+
                        +--Half-----+
                        +--Page-----+
                        +--CSR-----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

BACKWARD コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

**1** から **9999** の範囲の数値

指定したページ数または行数をスクロールします。

**MAX** 先頭にスクロールします。

**HALF** 半ページ分スクロールします。

**PAGE**

1 ページ分スクロールします。

**CSR** カーソルの位置に基づいてスクロールします。カーソルがスクロール可能域にある場合は、先頭にスクロールします。カーソルがスクロール可能域の外側または終わりにある場合は、1 ページ分スクロールします。

パラメーターを指定せずに BACKWARD コマンドを発行すると、デフォルト・パラメーターが使用されます。画面の右下隅にある「スクロール」フィールドで、デフォルト・パラメーターを表示または変更できます。

### 例

```
BACKWARD MAX
```

```
BACKWARD 4
```

```
BAC
```

---

## BATCH コマンド

BATCH コマンドは、「バッチ・リスト」パネルを開く場合に使用します。このウィンドウで、QMF バッチ・オブジェクトを作成および編集し、JCL ジョブを実行およびエクスポートします。

### 構文

```
>>---BATch---<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

例

BATCH

BAT

---

## BOTTOM コマンド

BOTTOM コマンドは、スクロール可能域の最終行までスクロールする場合に使用します。BOTTOM は FORWARD MAX と同等です。

構文

```
>>--Bottom--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

例

BOTTOM

BO

---

## CHANGE コマンド

CHANGE コマンドは、指示照会の表、列、結合オプション、または条件を変更する場合に使用します。

構文

```
>>--CHAnge--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

パラメーター

指示照会の表、列、結合オプション、または条件を変更するには、コマンド行に CHANGE と入力し、変更するエレメントにカーソルを置いて Enter を押します。

例

CHANGE

CHA

---

## CHECK コマンド

CHECK コマンドは、エラーの有無について書式パネルを検査する場合に使用します。CHECK コマンドを使用するには、報告書の書式パネルの 1 つが表示されていないことに注意してください。

構文

```
>>--CHEck--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

例

```
CHECK  
CHE
```

---

## CLEAR コマンド

CLEAR コマンドは、「オブジェクト・リスト」パネルのすべての「アクション」フィールドをクリアする場合に使用します。

構文

```
>>--CLear--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

例

```
CLEAR  
CLE
```

---

## CLOSE コマンド

CLOSE コマンドは、現在開いている文書を閉じます。

構文

```
>>--CL0se---+-----+---<<  
      +-A11-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

パラメーター

CLOSE コマンドのパラメーターとして ALL を指定すると、現在開いている文書がすべて閉じます。

例

```
CLOSE  
CLOSE ALL  
CLO A
```

---

## CONNECT コマンド

CONNECT コマンドは、リモート・データベース・サーバーに接続する場合に使用します。

構文

データベース・サーバーに接続するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--CONNect--T0--servername--<<
```



データベース・サーバーに接続してユーザーを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--CONNect---authorizationid--T0--servername--(Password=password---<<
```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

CONNECT コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### servername

接続先のサーバーの名前を指定します。

### authorizationid

データベース・ユーザーのユーザー ID を指定します。ユーザーには、パスワード付きの CONNECT 権限が付与されている必要があります。

### PASSWORD

データベース・ユーザーのパスワードを指定します。

## 例

```
CONNECT TO example_server
```

```
CONN example_auth_id T0 example_server(PASSWORD=abc
```

---

## CONVERT コマンド

CONVERT コマンドは、指示照会または SQL 照会を標準 SQL 構文の照会に変換します。元の照会は、この操作の影響を受けません。

## 構文

現在開いている照会を変換するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--CONVert--QUERY---<<
```

データベースに保管されている照会を変換するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--CONVert--queryname---+-----+<<  
+-Substitute=Yes/No-+
```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

CONVERT コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### queryname

変換する照会の名前。

### SUBSTITUTE

照会内の変数に値を割り当てるかどうかを指定します。このパラメーターの有効な値は以下のとおりです。

**YES** 照会が 1 つ以上の変数を使用する場合、QMF は各変数に値を割り

当てようとしています。すべての変数が &variable パラメーターまたは事前定義グローバル変数によって定義されている場合、プロンプト・パネルは表示されません。QMF は、変数に値を割り当てることができない場合、値を入力するように促すプロンプトをユーザーに出します。

**NO** 変数に値を割り当てません。

## 例

```
CONVERT QUERY
CONV query01
```

---

## CREATE コマンド

CREATE コマンドは、QMF オブジェクトを作成する場合に使用します。

### 構文

```
>>--CReate--+-Query--+-<<
      +-Proc----+
      +-FORm----+
      +-FOLder--+-foldername-+(-----+
                                +-Folder=parentfolder--+
                                +-Comment=text-----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

CREATE コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

#### QUERY

照会を作成して照会エディターを開きます。

#### PROC

プロシージャーを作成してプロシージャー・エディターを開きます。

#### FORM

データのデフォルト書式を作成し、画面に表示します。

#### FOLDER

指定した場所にフォルダーを作成します。

注: ワークスペース・フォルダーを作成するには、Folder パラメーターの値としてワークスペースへの絶対パスを指定する必要があります。

CREATE FOLDER コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

#### foldername

作成するフォルダーの名前を指定します。

#### FOLDER

親ワークスペース・フォルダーの名前を指定します。

## COMMENT

フォルダーのコメントを指定します。コメント・テキストは必ず引用符または括弧で囲んでください。

## 例

```
CREATE QUERY
CREATE Q
CREATE PROC
CREATE FORM
CREATE FOLDER NEW_FOLDER (FOLDER=parent_folder
CREATE FOLDER NEW_FOLDER (RSBI:/.WORKSPACES/WORKSPACENAME
```

---

## DELETE コマンド

DELETE コマンドは、一部の QMF パネルから特定の項目を削除する場合に使用します。

## 構文

```
>>--DElete--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## 説明

DELETE コマンドは、以下のいずれかの項目を削除する場合に使用します。

- 「Form.Main」パネルまたは「Form.Columns」パネルの列。
- 「Form.Calculations」パネルの計算式。
- 「Form.Conditions」パネルの条件式。
- 「Form.Break」パネル、「Form.Detail」パネル、「Form.Final」パネル、または「Form.Page」パネルのテキスト行。
- 表エディター使用時にデータベース表から行を削除。
- いずれかの指示照会エディター・パネルのリスト項目。
- 「グローバル」パネルのユーザー定義グローバル変数。

項目を削除するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド行に DELETE と入力します。
2. 削除する項目にカーソルを置きます。
3. Enter キーを押します。

## 例

```
DELETE
DEL
```

---

## DESCRIBE コマンド

DESCRIBE コマンドは、QMF オブジェクトに関する詳細情報を表示する場合に使用します。

### 構文

```
>>--DEscribe--<<
```

### 説明

「オブジェクト・リスト」パネルで DESCRIBE コマンドを使用して、以下のオブジェクトに関する詳細情報を表示します。

- 書式
- プロシージャ
- 照会
- 表
- ビュー
- フォルダー

オブジェクトに関する詳細情報を表示するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド行に DESCRIBE と入力します。
2. 詳細情報を表示する項目にカーソルを置きます。
3. Enter キーを押します。

### 例

```
DESCRIBE  
DES
```

---

## DISPLAY コマンド

DISPLAY コマンドは、一時ストレージまたはデータベースのオブジェクトを表示します。 DISPLAY コマンドはまた、パネル間のナビゲートにも使用できます。

### 構文

照会、プロシージャ、またはデータベース表を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--DIisplay+-----+--objectname+--<<  
      +-QUERY+-----+  
            +--objectname+  
      +-PROC--+-----+  
            +--objectname+  
      +-TABLE+-----+  
            +--objectname+
```

一時ストレージに保管されている書式を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--DIisplay--FORM+-----+--<<  
      +-.MAIN-----+  
      +-.BREAK1-----+  
      +-.BREAK2-----+
```

```

+-.BREAK3-----+
+-.BREAK4-----+
+-.BREAK5-----+
+-.BREAK6-----+
+-.COLUMNS-----+
+-.CONDITIONS-+
+-.DETAIL-----+
+-.OPTIONS-----+
+-.PAGE-----+
+-.FINAL-----+
+-.CALC-----+

```

データベースに保管されている書式を表示するには、次のコマンドを使用します。

```

>>--DIsplay+-----+objectname+---<<
      +-FORM-+

```

パネルのファンクション・キーのセットを表示または編集するには、次のコマンドを使用します。

```

>>--DIsplay--KEYS-+-----+<<
      (+panelid=panelid-+

```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

照会、プロシージャ、書式、表などのオブジェクトを表示するには、その名前を DISPLAY コマンドのパラメーターとして指定する必要があります。

注: 現在ログインしている所有者に属する QMF カタログ・オブジェクトの場合、オブジェクト名を単独で指定できます。他の所有者に属する QMF カタログ・オブジェクトの場合、テンプレート `display ownername.objectname` を使用します。リポジトリ・オブジェクトの場合、表示するオブジェクトの完全なオブジェクト・キーを入力します。

オブジェクト名を指定せずに QMF オブジェクト・タイプを指定すると、現行オブジェクトが開きます。

タイプの異なる複数のオブジェクトがデータベース内で同じ名前を持つ場合は、オブジェクトの名前とともにタイプを指定する必要があります。

DISPLAY KEYS コマンドの場合、panelid パラメーターを指定できます。これは、表示または編集するファンクション・キーのセットがあるパネルの ID です。panelid パラメーターを指定せずにコマンドを発行すると、QMF は、現在開いているパネルのファンクション・キーのリストを表示します。

QMF パネルとその ID の完全なリストを表示するには、103 ページの『付録 H. QMF パネルの ID』を参照してください。

## 例

```

DISPLAY QUERY EXAMPLE_QUERY_1
DI PROC
DISPLAY FORM.MAIN
DI rsbi:/.workspaces/workspace1/object1

```

---

## DRAW コマンド

DRAW コマンドは、データベース内の表の説明に基づいて、指定した表の基本 SQL 照会を作成します。

### 構文

```
>>--DRaw-tablename-+-----+<<
      (+-Type=Select/Insert/Update-+
      +-Identifier=corrname-----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

DRAW コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

**TYPE** 作成する照会のタイプを指定します。デフォルト値は **Select** です。

#### IDENTIFIER

結果として作成される照会内の表に関連付ける相関名を指定します。このパラメーターは、Type パラメーターの値が **Insert** に設定されている場合は無視されます。

### 例

```
DRAW Q.STAFF (Type=Select
```

```
DR Q.STAFF (Identifier=A
```

---

## EDIT コマンド

EDIT コマンドは、指定したオブジェクトを編集する場合に使用します。

### 構文

データベース・オブジェクトを編集するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--Edit-+-----+username.objectname-+-----+<<
      +-QUERY--+          (+-&&variablename=value-+
      +-PROC---+
      +-FORM---+
      +-TABLE--+
      +-REPORT-+
```

```
>>--Edit--rsbi:/.workspaces/workspacename/objectname--<<
```

一時ストレージに保管されているオブジェクトを編集するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--Edit--+QUERY--+-----<<
      +-FORM---+
      +-PROC---+
      +-REPORT-+
      +-TABLE---+
```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

EDIT コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### username

現行ユーザーのログイン。

### objectname

表示するオブジェクトの名前。

### workspacename

オブジェクトが保管されているワークスペースの名前。

### &&variablename

オブジェクトが照会またはプロシージャの場合に、オブジェクトが使用する各変数に値を割り当てます。

## 例

```
EDIT MYLOGIN.QUERY1
ED rsbi:/.workspaces/MY_WORKSPACE/QUERY1
```

---

## END コマンド

END コマンドは、現在開いているパネルか、「ホーム」パネルにいる場合は QMF セッションを終了します。

## 構文

```
>>--END--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## 例

```
END
EN
```

---

## ERASE コマンド

ERASE コマンドはデータベースからオブジェクトを削除します。

## 構文

```
>>-ERase--+-----+---ownername.objectname-----<<
>>-ERase--+-----+---rsbi:/.workspaces/workspacename/objectname---<<
      +-QUERY---+          ( +---Confirm=Yes/No-----+
      +-FORM---+          +-Folder=foldername---+
      +-PROC---+
      +-TABLE---+
      +-FOLDER---+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

ERASE コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### **ownername**

オブジェクトを所有するユーザーの名前。

### **objectname**

削除するオブジェクトの名前。

注: QMF の照会、プロシージャ、または書式は、削除すると、すべての参照元フォルダーからも削除されます。

FOLDER オブジェクトが削除されても、それが参照するオブジェクトは削除されません。

### **CONFIRM**

オブジェクトを削除する前に確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。

### **FOLDER**

削除するオブジェクトが保管されている QMF カタログ内のフォルダーを指定します。 FOLDER パラメーターを指定すると、QMF オブジェクトは指定したフォルダーからのみ削除されます。 QMF オブジェクト自体は削除されません。

### **workspacename**

オブジェクトが保管されているワークスペースの名前。

## 例

```
ERASE QUERY USERNAME.OBJECTNAME (CONFIRM=YES)
ER QUERY rsbi:/.workspaces/WORKSPACENAME/OBJECTNAME (C=Y)
ERASE QUERY MYQUERY (FOLDER=SALES)
```

---

## EXIT コマンド

EXIT コマンドは、QMF セッションを終了します。

### 構文

```
>>--EXIt--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### 例

```
EXIT
EXI
```

---

## EXPORT コマンド

EXPORT コマンドは、現在開いているオブジェクト、またはデータベースに保管されているオブジェクトをデータ・セットまたはファイルに保存します。



## 構文

QMF の照会、プロシージャー、書式、報告書、またはデータを一時ストレージからエクスポートするには、次のコマンドを使用します。

```
>>--EXPort-+-QUERY--+-TO-+-datasetname-+-+-----+<<
      +-PROC---+   +-pathname-----+ (+Member=membername---+
                                          +-CONFirm=Yes/No-----+
                                          +-Saveatserver=Yes/No-+
+-FORM---+-TO-+-datasetname-+-+-----+
      +-pathname-----+ (+Language=value-----+
                          +-Member=membername---+
                          +-CONFirm=Yes/No-----+
                          +-Saveatserver=Yes/No-+
+-REPORT-+-TO-+-datasetname-+-+-----+
      +-pathname-----+ (+Dataformat=value-----+
                          +-Member=membername---+
                          +-CONFirm=Yes/No-----+
                          +-Saveatserver=Yes/No-+
                          +-Width=integer-----+
                          +-Length=integer-----+
                          +-CCsid=value-----+
+-DATA---+-TO-+-datasetname-+-+-----+
      +-pathname-----+ (+Dataformat=value-----+
                          +-Outputmode=value-----+
                          +-Member=membername---+
                          +-CONFirm=Yes/No-----+
                          +-Saveatserver=Yes/No-+
                          +-DATEformat=value-----+
                          +-Timeformat=value-----+
                          +-Outputmode=value-----+
                          +-LOBStofile=Yes/No---+
                          +-LOBSto=pth1;pth2;---+
                          +-LOBFile=value-----+
                          +-CCsid=value-----+
                          +-Unicode=Yes/No-----+
                          +-Mode=GRID/RAW-----+
                          +-Columnheadings=Yes/No-+
```

QMF の照会、プロシージャー、書式、または表をデータベースからエクスポートするには、次のコマンドを使用します。

```
>>--EXPort-+-QUERY-+-objectname-TO-+-datasetname-+-+-----+<<
      +-PROC---+   +-pathname-----+ (+Member=membername---+
                                          +-CONFirm=Yes/No-----+
                                          +-Saveatserver=Yes/No-+
+-FORM---+-formname-TO-+-datasetname-+-+-----+
      +-pathname-----+ (+Language=value-----+
                          +-Member=membername---+
                          +-CONFirm=Yes/No-----+
                          +-Saveatserver=Yes/No-+
+-TABLE-+-tablename-+-TO-+-datasetname-+-+-----+
      +-pathname-----+ (+Dataformat=value-----+
                          +-Outputmode=value-----+
                          +-Member=membername---+
                          +-CONFirm=Yes/No-----+
                          +-DATEformat=value-----+
                          +-Timeformat=value-----+
                          +-LOBStofile=Yes/No---+
                          +-LOBSto=pth1;pth2;---+
                          +-LOBFile=value-----+
                          +-CCsid=value-----+
                          +-Columnheadings=Yes/No-+
                          +-Unicode=Yes/No-----+
                          +-Saveatserver=Yes/No-+
```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

### **objectname、formname、tablename**

エクスポートするオブジェクトの名前。

### **datasetname**

オブジェクトをエクスポートする TSO データ・セットの名前。

### **pathname**

オブジェクトをエクスポートする UNIX ファイルの名前。

### **MEMBER**

オブジェクトが TSO 区分データ・セットのメンバーにエクスポートされることを示します。

### **membername**

エクスポートされたオブジェクトを受け取るメンバーの名前。メンバー名は 8 文字に制限されています。メンバー名は、データ・セット名の接尾部として (括弧付きで) 追加されます。

### **CONFIRM**

既存のファイルを置き換える前に確認ダイアログを表示する必要があるかどうかを指定します。

### **DATEFORMAT**

HTML、CSV、または TXT のエクスポート・ファイルで日付を形式設定する方法を指定します。日付の形式は、Java の日付パターン・ストリングによって指定されます。日付のパターン・ストリング内で、引用符に囲まれていない「A」から「Z」および「a」から「z」の文字は、日付ストリングの構成要素を表すパターン文字と解釈されます。テキストを単一引用符 (') で囲むと、そのような解釈を避けることができます。

注: 形式ストリングにスペースが含まれている場合は、引用符で囲んでください。Java 形式ストリングについて詳しくは、「Java 2 SDK, Standard Edition Documentation」を参照してください。

### **TIMEFORMAT**

HTML、CSV、または TXT のエクスポート・ファイルで時刻を形式設定する方法を指定します。時刻の形式は、Java の時刻パターン・ストリングによって指定されます。時刻のパターン・ストリング内で、引用符に囲まれていない「A」から「Z」および「a」から「z」の文字は、時刻ストリングの構成要素を表すパターン文字と解釈されます。テキストを単一引用符 (') で囲むと、そのような解釈を避けることができます。

注: 形式ストリングにスペースが含まれている場合は、引用符で囲んでください。Java 形式ストリングについて詳しくは、「Java 2 SDK, Standard Edition Documentation」を参照してください。

### **LOBSINFILE**

エクスポートするデータに LOB を組み込む必要があるかどうかを指定します。

注: EXPORT TABLE コマンドと EXPORT DATA コマンドの場合、このパラメーターは IXF データ形式でのみ使用可能です。

### LOBSTO

LOB を保存する場所を指定します。

注: EXPORT TABLE コマンドと EXPORT DATA コマンドの場合、このパラメーターは IXF データ形式でのみ使用可能です。

### LOBFILE

エクスポートする LOB のベース名を指定します。

注: EXPORT TABLE コマンドと EXPORT DATA コマンドの場合、このパラメーターは IXF データ形式でのみ使用可能です。

### CCSID

ファイルの保存時に使用するコード・ページ (コード化文字セット識別番号) を指定します。この値は、整数またはコード・ページの Java™ エンコード名です。

### WIDTH

これは、報告書ページの幅を単位付きで指定します。

### LENGTH

報告書ページの長さを単位で指定します。

### COLUMNHEADINGS

列見出しをエクスポートするかどうかを指定します。このパラメーターは、HTML、CSV、TEXT のいずれかのファイルへのエクスポートにのみ使用できます。

### UNICODE

グラフィック列を UNICODE として保存するかどうかを指定します。このオプションは、データを IXF 形式で保存する場合にのみ適用されます。

### MODE

照会結果セットを形式設定や追加の計算列とともに保存するかどうかを指定します。以下のいずれかの値を指定できます。

- **GRID** - 現行照会結果セット内のすべてのデータを現在形式設定されているとおりに保存することを指定します。照会結果セットに追加された計算列がすべて保存されます。

これは、PDF、XLS、および XLSX の各形式のデフォルト値です。

注: DSQDC\_COL\_LABELS グローバル変数の値が 1 に設定されている場合、MODE **GRID** はラベルをエクスポートします。

DSQDC\_COL\_LABELS グローバル変数の値が 0 に設定されている場合、MODE **GRID** は名前をエクスポートします。

- **RAW** - 現行照会結果セット内のすべてのデータを保存することを指定します。データに適用された形式設定は保存されません。照会結果に追加された計算列は保存されません。

これは、PDF、XLS、および XLSX 以外のすべての形式のデフォルト値です。

注: **MODE RAW** は、常に名前をエクスポートします。これは、**MODE** パラメーターが省略されているときにも適用されます。

注: このパラメーターは、**Dataformat=XLS**、**XLSX** の場合は無視されません。

## **SAVEATSERVER**

オブジェクトのエクスポート・パスにルート出力ディレクトリーを含めるかどうかを指定します。**QMF Z Client** では、管理者が設定したルート・ディレクトリーにあるパスのみを指定できます。それ以外の場合、エクスポートは禁止され、エラーが発生します。

## **LANGUAGE**

書式を英語または現行セッション言語のどちらでエクスポートするかを指定します。英語でエクスポートされた書式は、どのセッションでも実行可能です。セッション言語でエクスポートされた書式は、同じ言語のセッションでのみ実行が可能です。デフォルト値が **DSQEC\_FORM\_LANG** グローバル変数で提供されます。

## **DATAFORMAT**

エクスポートするオブジェクトのファイル形式を指定します。有効な値は以下のとおりです。

### **HTML**

ハイパーテキスト・マークアップ言語 (**HyperText Markup Language**) 形式。HTML は、報告書をエクスポートする場合にのみ指定できます。これは UNIX ファイルのデフォルト形式です。TSO データ・セットまたは UNIX ファイルは、Web ブラウザーを介してそれらを表示可能な Web サーバーに転送できます。この形式のエクスポート可能データ行の最大長は 32 KB です。この限度を超えるレコード長をサポートする必要がある場合は、文字データのエクスポートに XML 形式を使用できます。XML 形式は最大 2 GB のレコード長をサポートします。

**IXF** **Integrated Exchange Format**。データ・オブジェクトと表をエクスポートする場合にのみ使用できます。この形式のエクスポート可能データ行の最大長は 32 KB です。この限度を超えるレコード長をサポートする必要がある場合は、文字データのエクスポートに XML 形式を使用できます。XML 形式は最大 2 GB のレコード長をサポートします。

**DBF** **dBase** データベース・ファイル形式。このオプションは、データ・オブジェクトと表をエクスポートする場合にのみ使用できます。

**XML** **Extensible Markup Language** 形式。データは、**CCSID 1208** のユニコード **UTF-8** 形式の XML 文書としてエクスポートされます。このオプションは、データ・オブジェクトまたは表をエクスポートする場合にのみ使用でき、データまたは表を UNIX ファイルにエクスポートする場合の唯一のオプションです。

この形式のエクスポート可能データ行の最大長は 32 KB です。

この形式を使用する場合は、エクスポートする XML データ内のすべての文字が XML パーサーでサポートされていることを確認してください。

- PDF** Adobe Portable Document Format。このオプションは、報告書をエクスポートする場合にのみ使用できます。
- XLS** Microsoft Excel Binary File 形式。このオプションは、データ・オブジェクトと表をエクスポートする場合にのみ使用できます。
- XLSX** Microsoft Excel 2007 以降で使用される Microsoft Excel Binary File 形式。このオプションは、データ・オブジェクトと表をエクスポートする場合にのみ使用できます。
- TEXT** 制御情報なしで報告書をエクスポートするための形式。このオプションは、報告書をエクスポートする場合にのみ使用できます。
- CSV** Comma-Separated Values 形式。このオプションは、データ・オブジェクトと表をエクスポートする場合にのみ使用できます。

この形式でエクスポートするデータの最大 LRECL は 32756 です。

#### OUTPUTMODE

エクスポートされたオブジェクトでの数値データの表現方法を指定します。このオプションは、エクスポート・ファイル形式が IXF の場合にのみ指定できます。有効な値は以下のとおりです。

#### BINARY

数値列データをネイティブ内部形式にエンコードします。

エクスポートされたオブジェクトのヘッダー・レコード内の数値データには適用されません。これらは常に文字形式で表されます。

#### CHARACTER

数値列データを EBCDIC の文字表現に変換します。

#### 例

```
EXPORT PROC KATIE.PANELID TO dataset
EXPORT QUERY FIRSTQ TO LOREN (MEMBER=GAMMA)
```

---

## FAVORITE コマンド

FAVORITE コマンドは、お気に入りオブジェクトのリストにオブジェクトを追加します。

#### 構文

```
>>--FAVORITE--objectname--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

#### 例

```
FAVORITE example_object
FA example_object
```

---

## FORWARD コマンド

FORWARD コマンドは、スクロール可能域を下方向にスクロールします。

### 構文

```
>>--F0rward-----+-----+--<<
      +--value--+
      +--Max----+
      +--Half---+
      +--Page---+
      +--CSR----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

FORWARD コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

#### 1 から 9999 の範囲の数値

指定したページ数または行数をスクロールします。

**MAX** 末尾にスクロールします。

**HALF** 半ページ分スクロールします。

#### PAGE

1 ページ分スクロールします。

**CSR** カーソルの位置に基づいてスクロールします。カーソルがスクロール可能域にある場合は、末尾にスクロールします。カーソルがスクロール可能域の外側または終わりにある場合は、1 ページ分スクロールします。

パラメーターを指定せずに FORWARD コマンドを発行すると、デフォルト・パラメーターが使用されます。画面の右下隅にある「スクロール」フィールドで、デフォルト・パラメーターを表示または変更できます。

### 例

```
FORWARD 4
FORWARD MAX
FO M
```

---

## HELP コマンド

HELP コマンドは、指定のパネル、現在表示されているパネル、またはエラー・メッセージのヘルプ・トピックを表示します。

### 構文

```
>>--Help--+-----+--<<
      +panelid---+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

パラメーターを指定せずに HELP コマンドを使用すると、現在開いているパネルのヘルプ・トピック、またはコマンド行の上に表示されているエラー・メッセージのヘルプ・トピックが表示されます。

特定パネルのヘルプ・トピックを表示するには、表示するパネルの ID を HELP コマンドの値として指定します。QMF パネルとその ID の完全なリストを表示するには、103 ページの『付録 H. QMF パネルの ID』を参照してください。

指定した ID に一致するトピックが見つからない場合は、ヘルプ目次が表示されます。

## 例

```
HELP
H
```

---

## IMPORT コマンド

IMPORT コマンドは、TSO データ・セットまたは UNIX ファイルの内容を QMF 一時ストレージまたはデータベースにコピーします。

## 構文

QMF オブジェクトを一時ストレージにインポートするには、次のコマンドを使用します。

```
>>--IMPORT+-QUERY+-FROM+-datasetname+-----+<<
      +-PROC--+      +-pathname----+ (+Member=mbrname--+
      +-FORM--+      +-datasetname+-----+<<
                          +-pathname----+ (+Member=mbrname--+
                                      +-Language=value--+
      +-DATA--+      +-datasetname+-----+<<
                          +-pathname----+ (+Member=mbrname--+
                                      +-Lobsfrom=value--+
```

注: MEMBER パラメーターは、TSO データ・セットからインポートする場合にのみ受け入れられます。

QMF の照会、プロシージャ、書式、または表をデータベースにインポートするには、次のコマンドを使用します。

```
>>--IMPORT+-QUERY+-objname-FROM+-datasetname+-----+<<
      +-PROC--+      +-pathname----+ (+Member=mbrname--+
                                      +-CONFIRM=YES/NO--+
                                      +-SHARE=value----+
                                      +-COMMENT=value----+
                                      +-Folder=value----+
      +-FORM--+-objname-FROM+-datasetname+-----+<<
                          +-pathname----+ (+Language=value--+
                                      +-Member=mbrname--+
                                      +-CONFIRM=YES/NO--+
                                      +-SHARE=YES/NO----+
                                      +-COMMENT=value----+
                                      +-Folder=value----+
      +-TABLE--+-tblname-FROM+-datasetname+-----+<<
                          +-pathname----+ (+Action=value----+
                                      +-Member=mbrname----+
```

```
+--CONFIRM=YES/NO----+
+-COMMENT=value-----+
+-ACCELERATOR=value--+
+-SPACE=value-----+
+-SPACE DATABASE=value+
```

## パラメーター

IMPORT コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### **objname、tblname**

インポートするオブジェクトの名前を指定します。

### **datasetname、pathname**

内容をインポートする TSO データ・セットの名前または UNIX パス名を指定します。

### **MEMBER**

インポートするオブジェクトが TSO 区分データ・セットのメンバーであることを指示します。

### **mbrname**

インポートする内容を持つメンバーの名前を指定します。メンバー名は 8 文字に制限されています。メンバー名は、データ・セット名の接尾部として (括弧付きで) 追加されます。

### **CONFIRM**

既存のオブジェクトを置き換える前に確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。

### **COMMENT**

インポートするオブジェクトにコメントを指定します。コメント・テキストは必ず引用符で囲んでください。

### **SHARE**

他のユーザーがインポートされたオブジェクトを使用できるかどうかを指定します。

### **LANGUAGE**

インポートする書式内に含まれる QMF キーワードを、英語で記録するか、現行 NLF セッション言語で記録するかを指定します。有効な値は ENGLISH と SESSION です。

### **ACTION**

データベース表全体を置き換えるか、既存の表に新規データを追加するかを指定します。有効な値は REPLACE と APPEND です。

### **FOLDER**

オブジェクトのインポート先のフォルダーを指定します。

### **SPACE**

データベース名と表スペース名の両方を指定して、表を特定のデータベース・コンテナおよび表スペースに保存します。

注:

- Db2 for z/OS データベースの場合、`database.tablespace` が使用されます。



- Db2 for LUW データベースの場合、tablespace が使用されます。

### SPACE DATABASE

データベース名のみを指定して、作成した表の名前で自動的に作成される表スペースを持つデータベース・コンテナに表を保存します。

注: このパラメーターは z/OS データベースでのみ使用されます。

### ACCELERATOR

データの保存に使用するアクセラレーターの名前を指定します。

ACCELERATOR キーワードの長さは最大 128 文字です。SPACE キーワードが既にコマンドに指定されている場合、DSQEC\_SAV\_ALLOWED グローバル変数の値が 5 に設定されていない限り、ACCELERATOR キーワードは指定できません。ACCELERATOR キーワードのデフォルト値は DSQEC\_SAV\_ACCELNM グローバル変数から取得されます。

ACCELERATOR キーワードは、IDAA をサポートする Db2 z/OS サーバーでのみサポートされます。

### LOBFROM

LOB の保管場所を指定します。

### 例

```
IMPORT TABLE MYTABLE FROM NEW.ROWS (ACTION=APPEND)
```

---

## INSERT コマンド

INSERT コマンドは、特定の QMF パネルで特定の項目を作成する場合に使用します。

### 構文

```
>>--INSert--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### 説明

INSERT コマンドを使用して、以下の項目を作成します。

- 「Form.Main」パネルまたは「Form.Columns」パネルの列。
- 「Form.Calculations」パネルの計算式。
- 「Form.Conditions」パネルの条件式。
- 「Form.Break」パネル、「Form.Detail」パネル、「Form.Final」パネル、または「Form.Page」パネルのテキスト行。
- いずれかの指示照会エディター・パネルのリスト項目。

項目を作成するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド行に INSERT と入力します。
2. 直後に新しい項目を挿入する項目にカーソルを置きます。
3. Enter キーを押します。

## 例

```
INSERT  
INS
```

---

## ISPF コマンド

ISPF コマンドは、Interactive System Product Facility (ISPF) を呼び出します。

### 構文

```
>>--ISpf--+-----+---<<  
          +-option-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

ISPF コマンドには OPTION パラメーターを指定できます。このパラメーターは、ISPF に渡す初期オプションを指定します。例えば、3 を入力すると、3 番目の ISPF パネル・オプションが選択されます。

## 例

```
ISPF 3  
IS 4
```

---

## LEFT コマンド

LEFT コマンドは、パネルを左境界に向かってスクロールします。

### 構文

```
>>--LEft-----+-----+---<<  
          +--value--+  
          +--Max-----+  
          +--Half-----+  
          +--Page-----+  
          +--CSR-----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

LEFT コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

**値** スクロール可能域をこのページ数または列数 (1 から 9999 の範囲の整数) の分だけ左にスクロールします。スクロール単位 (ページ数または列数) は、現在開いているパネルによって異なります。

**MAX** パネルの左端の境界までスクロールします。

**HALF** スクロール可能域を左に半ページ分スクロールします。

**PAGE**

スクロール可能域を左に 1 ページ分スクロールします。

**CSR** スクロールはカーソルの位置に基づいて行われます。カーソルが置かれている列が、スクロール可能域の左境界まで移動します。カーソルがスクロール可能域の外側またはその左境界上にある場合は、1 ページ分スクロールします。

パラメーターを指定せずに LEFT コマンドを発行すると、デフォルト・パラメーターが使用されます。画面の右下隅にある「スクロール」フィールドで、デフォルト・パラメーターを表示または変更できます。

#### 例

```
LEFT  
LE MAX  
LE M
```

---

## LIMIT LOCAL コマンド

LIMIT LOCAL コマンドは、ローカル変数の選択可能な値のセットを作成します。このコマンドを発行すると、「プロンプト変数」ダイアログで事前定義値の 1 つを選択できます。LIMIT LOCAL コマンドで作成された変数は、現行オブジェクト (照会、報告書) でのみ使用可能で、グローバル変数リストには表示されず、他のプロシージャに影響を与えることもありません。

#### 構文

```
>>--LIMit-Local-(variablename=value, ...--<<
```

#### パラメーター

LIMIT LOCAL コマンドには、variablename パラメーターを指定できます。このパラメーターは、作業対象のローカル変数の名前を指定します。

ローカル変数に指定する値はそれぞれ、1 文字から 55 文字の長さにするできます。選択可能な値のセットを作成するには、値をセミコロンで区切ります。

#### 例

```
LIMIT LOCAL (Var1=1;2;3 Var2=2;4;5  
LIM L (Var1=1;2;3 Var2=2;4
```

---

## LIST コマンド

LIST コマンドは「オブジェクト・リスト」パネルを表示します。

#### 構文

```
>>-LIST--+-----+--+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+<<  
+-QUeries-+ (+Folder=rsbi:/.workspaces/workspacename--+<  
+-Tables--+ +-Owner=authorizationid/patternstring/ALL-+<  
+-FORms----+ +-Name=ALL/objectname/patternstring-----+<  
+-Procs----+ +-Location=servername-----+<  
+-FOLders-+<  
+-A11-----+<  
+-QMF-----+<  
+-Home----+<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要となる最小文字セットを示しています。

LIST コマンドに指定したオブジェクトに応じて、「オブジェクト・リスト」パネルに以下のオブジェクトが表示されます。

**LIST** 「オブジェクト・リスト」パネルには、最後に表示されたオブジェクト・リストが表示されます。このコマンドがセッション中に初めて発行された場合、LIST コマンドは LIST HOME コマンドと同様に動作します。

#### **LIST QUERIES**

「オブジェクト・リスト」パネルには、現行データ・ソースからアクセス可能な照会が表示されます。

#### **LIST TABLES**

「オブジェクト・リスト」パネルには、現行データ・ソースからアクセス可能な表が表示されます。

#### **LIST FORMS**

「オブジェクト・リスト」パネルには、現行データ・ソースからアクセス可能な書式が表示されます。

#### **LIST PROCS**

「オブジェクト・リスト」パネルには、現行データ・ソースからアクセス可能なプロシージャが表示されます。

#### **LIST FOLDERS**

「オブジェクト・リスト」パネルには、現行データ・ソースからアクセス可能なフォルダーが表示されます。

#### **LIST ALL**

「オブジェクト・リスト」パネルには、現行データ・ソースからアクセス可能なすべてのオブジェクトが表示されます。

**QMF** 「オブジェクト・リスト」パネルには、現行データ・ソースからアクセス可能な QMF の照会、書式、プロシージャ、およびフォルダーが表示されます。

#### **LIST HOME**

「リスト」パネルを開きます。このパネルでは、表示するオブジェクトのデータ・ソースまたはワークスペースを指定し、Enter を押す必要があります。Enter を押すと、選択したデータ・ソースやワークスペースからアクセスできるすべてのオブジェクトが QMF に表示されます。

### **パラメーター**

LIST コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

#### **FOLDER**

内容をリストする QMF カタログ内のフォルダーまたはワークスペース・フォルダーを指定します。デフォルト値は DSQEC\_CURR\_FOLDER グローバル変数によって指定されます。

#### **OWNER**

リストするオブジェクトの所有者を指定します。

所有者名でリストをフィルターに掛けるには、% 文字と \_ 文字を使用します。文字ストリングを置換するには % 文字を使用し、単一文字を置換するには \_ を使用します。

例えば、所有者名に特定の文字ストリングが含まれているすべてのオブジェクトのリストを取得するには、その文字ストリングの後、または前後に % 文字を入力します。

## NAME

表示するオブジェクトのフルネームまたはその一部を指定します。

オブジェクト名でリストをフィルターに掛けるには、% 文字と \_ 文字を使用します。文字ストリングを置換するには % 文字を使用し、単一文字を置換するには \_ を使用します。

例えば、名前に特定の文字ストリングが含まれているすべてのオブジェクトのリストを取得するには、その文字ストリングの後、または前後に % 文字を入力します。

## LOCATION

リストするオブジェクトがある場所を指定します。

## 例

LIST QUERIES

LIS AL (F=rsbi:/workspaces/MY\_WORKSPACE

LIST TABLES (N=%TA%

---

## MAIL TO コマンド

MAIL TO コマンドは、指定されたオブジェクトをインターネット・メールの添付ファイルとして送信します。

## 構文

データベースに保管されているオブジェクトを E メールで送信するには、次のコマンドを実行します。

```
>>-Mail-+-----+objectname-T0-emailaddress--<<
    +--QUERY--+          (+-From=address-----+
    +--PROC---+          +-CCList=address1;address2-+
    +--FORM---+          +-Subject=subject-----+
                                +-Body=text-----+
                                +-Format=text/HTML-----+
                                +-SMTPServer=server_name---+
                                +-SMTPPort=port_number-----+
                                +-SMTPUser=username-----+
                                +-SMTPPassword=password----+
                                +-DATEformat=java_date_format_string+
                                +-Timeformat=java_time_format_string+
>>-Mail-+-----+objectname-T0-emailaddress--<<
    +--TABLE--+          (+-From=address-----+
                                +-CCList=address1;address2-+
                                +-Dataformat=value-----+
                                +-Subject=subject-----+
                                +-Body=text-----+
                                +-Format=text/HTML-----+
                                +-SMTPServer=server_name---+
                                +-SMTPPort=port_number-----+
```

```

+-SMTPUser=username-----+
+-SMTPPassword=password----+
+-DATEformat=java_date_format_string-+
+-Timeformat=java_time_format_string-+

```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

一時ストレージに保管されているオブジェクトを E メールで送信するには、次のコマンドを実行します。

```

>>-MAil-+-QUERY-+-TO-emailaddress--<<
+-PROC--+          (+-FRom=address-----+
+-FORM--+          +-CClist=address1;address2-+
                  +-Subject=subject-----+
                  +-Body=text-----+
                  +-FOrmat=text/HTML-----+
                  +-SMTPServer=server_name---+
                  +-SMTPPort=port_number----+
                  +-SMTPUser=username-----+
                  +-SMTPPassword=password----+
+-DATEformat=java_date_format_string-+
+-Timeformat=java_time_format_string-+

>>-MAil-+-DATA-+-TO-emailaddress-+-----<<
                  (+-FRom=address-----+
                  +-CClist=address1;address2-+
                  +-Dataformat=value-----+
                  +-Subject=subject-----+
                  +-Body=text-----+
                  +-FOrmat=text/HTML-----+
                  +-SMTPServer=server_name---+
                  +-SMTPPort=port_number----+
                  +-SMTPUser=username-----+
                  +-SMTPPassword=password----+
+-DATEformat=java_date_format_string-+
+-Timeformat=java_time_format_string-+

>>-MAil-+-REPORT-+-TO-emailaddress--<<
                  (+-FRom=address-----+
                  +-CClist=address1;address2-+
                  +-Subject=subject-----+
                  +-Body=text-----+
                  +-FOrmat=text/HTML-----+
                  +-SMTPServer=server_name---+
                  +-SMTPPort=port_number----+
                  +-SMTPUser=username-----+
                  +-SMTPPassword=password----+
+-DATEformat=java_date_format_string-+
+-Timeformat=java_time_format_string-+
                  +-Method=value-----+
                  +-Type=value-----+

```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

メッセージを E メールで送信するには、次のコマンドを実行します。

```

>>-MAil-+-MESSAGE--+-TO-emailaddress--<<
                  (+-FRom=address-----+
                  +-CClist=address1;address2-+
                  +-Subject=subject-----+
                  +-Body=text-----+
                  +-FOrmat=text/HTML-----+
                  +-SMTPServer=server_name---+
                  +-SMTPPort=port_number----+

```

```
+SMTPUser=username-----+
+SMTPPassword=password----+
+-Attachment=file1;file2---+
+-DATEformat=java_date_format_string--+
+-Timeformat=java_time_format_string--+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

MAIL TO コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### emailaddress

オブジェクトの送信先の E メール・アドレスを指定します。

### FROM

差出人 E メール・アドレスを指定します。

### CCLIST

1 つ以上の宛先 E メール・アドレスを指定します。

### DATAFORMAT

添付するデータ・オブジェクトのファイル形式を指定します。有効な値は、CSV、DBF、HTML、IXF、PDF、QMF、SHP、TEXT、WQML、XLS、XLSX、および XML です。

このパラメーターを省略すると、使用する形式を DSQQW\_EXP\_DT\_FRMT グローバル変数が提供します。DSQQW\_EXP\_DT\_FRMT グローバル変数について詳しくは、79 ページの『DSQQW グローバル変数』を参照してください。

### SUBJECT

E メール件名行参照を指定します。

### BODY

E メール・メッセージの内容を指定します。

### FORMAT

Eメールの形式を指定します。サポートされる形式はテキストと HTML です。

### SMTPSERVER

使用する SMTP サーバーの名前を指定します。

### SMTPPORT

使用する SMTP サーバー・ポートの番号を指定します。

### SMTPUSER

SMTP サーバーでの許可に使用するユーザー名を指定します。

### SMTPPASSWORD

SMTP サーバーでの許可に使用するパスワードを指定します。

### DATEFORMAT

HTML、CSV、または TXT のエクスポート・ファイルで日付を形式設定する方法を指定します。

日付の形式は、Java の日付パターン・ストリングによって指定されます。日付のパターン・ストリング内で、引用符に囲まれていない「A」から「Z」および「a」から「z」の文字は、日付ストリングの構成要素を表すパターン文字と解釈されます。

そのような解釈を避けるには、テキストを単一引用符 (') で囲む必要があります。

形式ストリングにスペースが含まれている場合は、引用符で囲んでください。Java 形式ストリングについて詳しくは、「Java 2 SDK, Standard Edition Documentation」を参照してください。

#### **TIMEFORMAT**

HTML、CSV、または TXT のエクスポート・ファイルで時刻を形式設定する方法を指定します。

時刻の形式は、Java の時刻パターン・ストリングによって指定されます。時刻のパターン・ストリング内で、引用符に囲まれていない「A」から「Z」および「a」から「z」の文字は、時刻ストリングの構成要素を表すパターン文字と解釈されます。

そのような解釈を避けるには、テキストを単一引用符 (') で囲む必要があります。

形式ストリングにスペースが含まれている場合は、引用符で囲んでください。Java 形式ストリングについて詳しくは、「Java 2 SDK, Standard Edition Documentation」を参照してください。

#### **ATTACHMENT**

E メールに添付するファイルの名前とパスを指定します。データ・セットまたは UNIX ファイルを添付する場合は、オブジェクトへのパスを必ず二重引用符で囲んでください。

**TYPE** 報告書の変換先の形式を指定します。有効な値は PDF、HTML、および TEXT です。

#### **METHOD**

報告書を複数のページに分割するかどうかを指定します。有効な値は SPLIT と CONT です。

#### **例**

```
MAIL QUERY TO abc@mail.com (SU="subj", SMTPS=smtp.example.com
MA QUERY TO abc@mail.com (SU="subj", SMTPS=smtp.example.com
```

---

## **REFRESH コマンド**

REFRESH コマンドは、「オブジェクト・リスト」パネルのリストを最新表示します。

REFRESH コマンドは、「オブジェクト・リスト」パネルで、リストを更新するために使用できます。

#### **構文**

```
>>--REFresh--<<
```



図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## 例

```
REFRESH
REF
```

---

## RENAME コマンド

RENAME コマンドは、指定したオブジェクトの名前を変更します。

### 構文

```
>>--REName-+-----+---source_object_name-TO-new_object_name--<<
      +-QUERY--+
      +-FORM----+
      +-PROC----+
      +-TABLE--+
      +-FOLDER-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

RENAME コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

#### **source\_object\_name**

名前変更するオブジェクトの現在の名前を指定します。

#### **new\_object\_name**

名前変更するオブジェクトの新しい名前を指定します。

注: 名前変更するオブジェクトが QMF カタログに保管されているか、現在ログインしている所有者に属している場合は、両方のパラメーターの値として、そのオブジェクトの名前のみを入力します。オブジェクトがリポジトリに保管されているか、別の所有者に属している場合は、両方のパラメーターの値として、そのオブジェクトへの絶対パスを入力します。

## 例

```
RENAME QUERY QUERY_old TO QUERY_new
REN PROC rsbi:/.workspaces/.../PROC1 TO rsbi:/.workspaces/.../PROC2
```

---

## RESET コマンド

RESET コマンドは、指定したオブジェクトをデフォルトの状態に復元します。  
RESET コマンドの機能は、リセットされるオブジェクトによって多少異なります。

### 構文

```
>>--RESet-+-----+-----<<
      +-Query--+
      (+-(Language=value-+
      +--Model=Rel-----+
      +-Proc----+
      +-Data----+
```

```

+-Context--+
+-FORM-----+-----+
      +-.BREAK1-----+
      +-.BREAK2-----+
      +-.BREAK3-----+
      +-.BREAK4-----+
      +-.BREAK5-----+
      +-.BREAK6-----+
      +-.CALC-----+
      +-.COLumns-----+
      +-.CONDitions--+
      +-.Detail-+-----+
              (+-Variation=value--+
              +-Using=value-----+
      +-.Final-----+
      +-.Options-----+
      +-.Page-----+

```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

RESET QUERY コマンドと RESET PROC コマンドは、新規オブジェクトを作成し、現在開いているオブジェクトを閉じます。

RESET QUERY コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### LANGUAGE

使用する照会言語を指定します。有効な値は以下のとおりです。

**SQL** リセットする照会が SQL で書かれていることを指定します。

### PROMPTED

リセットする照会が指示照会エディターを使用して作成されていることを指定します。

### MODEL

照会に使用するデータ・モデルを指定します。リレーショナル・データの REL が、サポートされている唯一の値です。

RESET DATA コマンドは、現在開いている照会結果セットを閉じます。

RESET CONTEXT コマンドは、現行ユーザーのユーザー・コンテキスト (グローバル変数のリスト、お気に入りのリスト、最近使用したオブジェクトのリスト、「お気に入りのアクション」パネルの内容など) をデフォルトの状態に復元します。

RESET FORM コマンドは、現在表示されている書式パネルをデフォルトの状態に復元します。

RESET FORM.DETAIL コマンドには以下のオプションを指定できます。

### VARIATION

リセットする詳細バリエーションを指定します。このオプションを省略すると、現在の詳細バリエーションがリセットされます。有効な値は、1 から 99 までの整数または ALL です。ALL 値は、すべての詳細バリエーションをそのデフォルト値にリセットします。

## USING

リセットまたは別のバリエーションを作成するためのテンプレートとして使用する詳細バリエーションを指定します。これは、詳細パネルに多くの変更を行い、同様の変更で別のパネルを作成する場合に役立ちます。有効な値は 1 から 99 までの整数です。

## 例

```
RESET QUERY
RESET QUERY(LANG=PROMPTED
RES FORM.F
```

---

## RESET GLOBAL コマンド

RESET GLOBAL コマンドは、管理者またはユーザーが作成したグローバル変数を削除し、アプリケーション開発者が事前定義したグローバル変数のみを残します。

## 構文

```
>>--RESet Global--+-All-----+---<<
          +- (varname1, varname2-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

RESET GLOBAL コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### **varname**

削除する変数の名前を指定します。最大 10 個の変数を指定できます。区切り文字としてコンマまたはブランク・スペースを使用します。

**ALL** 管理者またはユーザーによって作成されたすべてのグローバル変数を削除します。

## 例

```
RESET GLOBAL ALL
RES G (example_variable1, example_variable2
```

---

## RESET KEY コマンド

RESET KEY コマンドは、指定したファンクション・キーをデフォルトの状態にリセットします。

## 構文

```
>>--RESet Key(Panelid=+----ALL---+, Keyid=+--ALL-----<<
          +--CURRENT-+          +-key_id-+
          +-panel_id-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

RESET KEY コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### PANELID

リセットするキーがあるパネルを指定します。可能な値は以下のとおりです。

- ALL - 指定したキーを、そのキーを使用するすべてのパネルでリセットします。
- CURRENT - 指定したキーを、現在開いているパネルでリセットします。
- panel\_id - 指定したキーを、PANELID パラメーターの値として入力した ID を持つパネルでリセットします。QMF パネルとその ID の完全なリストを表示するには、103 ページの『付録 H. QMF パネルの ID』を参照してください。

### KEYID

リセットするキーを指定します。可能な値は以下のとおりです。

- ALL - 指定したパネルのすべてのキーをリセットします。
- key\_id - 指定したパネルの特定のキーをリセットします。有効な値は 1 から 24 までの整数です。

### 例

```
RESET KEY (PANELID=CURRENT, KEYID=ALL
RES K (P=example_panel, K=ALL
RES K (P=example_panel, K=10
```

---

## RETRIEVE コマンド

RETRIEVE コマンドは、最新のコマンド行入力を再表示します。

### 構文

最新のコマンド行入力を表示するには、コマンド行に RETRIEVE と入力します。

```
>>--RETRieve--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

複数のコマンド行入力をさかのぼるには、コマンド行に複数の ? 文字を入力します。この ? 文字の数で、コマンド行履歴をどれくらいさかのぼるかが決まります。

```
>>--??--<<
```

### 例

```
RETRIEVE
RET
???
```

---

## RIGHT コマンド

RIGHT コマンドは、パネルを右境界に向かってスクロールします。

### 構文

```
>>--RIght----+-----+--<<
          +--value--+
          +--Max----+
          +--Half----+
          +--Page----+
          +--CSR----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

RIGHT コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

**値** スクロール可能域をこのページ数または列数 (1 から 9999 の範囲の整数) の分だけ右にスクロールします。スクロール単位 (ページ数または列数) は、現在開いているパネルによって異なります。

**MAX** パネルの右端の境界までスクロールします。

**HALF** スクロール可能域を右に半ページ分スクロールします。

#### PAGE

スクロール可能域を右に 1 ページ分スクロールします。

**CSR** スクロールはカーソルの位置に基づいて行われます。カーソルが置かれている列が、スクロール可能域の右境界まで移動します。カーソルがスクロール可能域の外側またはその右境界上にある場合は、1 ページ分のスクロールが行われます。

パラメーターを指定せずに RIGHT コマンドを発行すると、デフォルト・パラメーターが使用されます。画面の右下隅にある「スクロール」フィールドで、デフォルト・パラメーターを表示または変更できます。

### 例

```
RIGHT
RIGHT MAX
RI HALF
```

---

## RUN コマンド

RUN コマンドは、照会またはプロシージャーを実行する場合に使用します。

### 構文

照会を実行するには、次のコマンドを使用します。

```
>>--RUh-+-----+objectname+-----+--<<
          +-QUERY-+          (+-ACCeLerator=value-----+
                              +-ACCELERATORDATABASE=name+
                              +-ACTIon=append/replace----+
                              +-COMment=comment_text----+
```

```

+-CONFIRM=Yes/No-----+
+-FORM=FORM/formname-----+
+-METHOD=method_name-----+
+-MODE=GRID/RAW-----+
+-ROWIDADD=YES/NO-----+
+-ROWIDDISP=value-----+
+-ROWIDNAME=text-----+
+-ROWLIMIT=integer-----+
+-SPACE=value-----+
+-SPACE DATABASE=database-+
+-SCOPE=integer-----+
+-Table=tablename-----+
+-&&variablename=value----+

```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

プロシーチャーを実行するには、次のコマンドを使用します。

```

>>-RUN-+-----+objectname-+--+-----+<<
      +-PROC-+          (+-&&variablename=value-+

```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

RUN QUERY コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### objectname

実行する照会の名前を指定します。

### CONFIRM

このコマンドの結果としてオブジェクトを置換または変更する前に確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。

### FORM

報告書を返す必要がある照会を実行する場合は、このパラメーターを使用して、選択したデータの形式設定に使用する QMF 書式を指定します。キーワード FORM を指定して、一時ストレージに現在保管されている書式オブジェクトを使用するか、データベースに保存されている書式の名前を指定できます。一時ストレージに同時に開いている複数の書式がある場合は、最後に開かれた書式が使用されることに注意してください。

### ROWLIMIT

照会結果セットに含める表の最大行数を指定します。

### &&variablename

照会内の変数に値を割り当てます。変数名の長さは 1 文字から 17 文字、値の長さは 1 文字から 55 文字です。RUN コマンドでは、任意数の変数と値を指定できます。変数名は、先頭に 2 つのアンパーサンドを付け、引用符で囲む必要があります。

### ACTION

照会から返されたデータでデータベース表全体を置き換えるか、そのデータを既存の表に追加するかを指定します。このオプションは、TABLE オプションも指定されている場合にのみ有効です。有効な値は REPLACE と APPEND です。

## TABLE

照会結果を表に挿入することを指定します。このパラメーターの有効な値は表の名前です。

## COMMENT

コメントを作成し、照会から返されて指定の表に挿入するデータとともに保管します。このオプションは、**TABLE** オプションも指定されている場合にのみ有効です。

## SPACE

SAVE DATA コマンドで作成された表を保持するためのストレージ・スペースを指定します。このパラメーターの値をブランクのままにすると、アプリケーションはデータベース・マネージャー・プログラムで選択されたデフォルトのスペースを使用します。

## SPACE DATABASE

特定のデータベース・コンテナに表を保存するためのデータベース名を指定します。表スペースは、作成された表の名前で自動的に作成されます。このパラメーターは z/OS データベースでのみ使用されます。

## ACCELERATOR

表が作成されるアクセラレーターの名前を指定します。

## ACCELERATORDATABASE

アクセラレーター専用表を保存するために使用するデータベースの名前を指定します。ACCELERATORDATABASE キーワードの長さは最大 128 文字です。ACCELERATORDATABASE パラメーターのデフォルト値は、DSQEC\_SAV\_ACCELDB グローバル変数から取得されます。DSQEC\_SAV\_ACCELDB グローバル変数の値が空でなければ、SPACE キーワードで指定されたデータベースは無視されます。

## MODE

照会結果セットを形式設定や追加の計算列とともに保存するかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。

**RAW** 照会結果セットを形式設定や追加の計算列なしで保存します。

**GRID** 照会結果セットを形式設定や追加の計算列とともに保存します。

## METHOD

照会結果セットの保存方法を指定します。有効な値は以下のとおりです。

### REGULAR

照会結果セット・データをクライアントからデータベース・サーバーに送り返し、そこで表に挿入します。

**FAST** サーバーで照会を再実行し、照会結果を表に直接挿入します。

### FASTSAFE

ORDER BY 節を指定せずにサーバーで照会を再実行し、照会結果を表に直接挿入します。

## ROWIDADD

行 ID 列を表に追加するかどうかを指定します。

## ROWIDDISP

新しい行 ID 列の後処理を指定します。

## ROWIDNAME

新しい行 ID 列の名前を指定します。

## SCOPE

データのコミット有効範囲を指定します。

RUN PROC コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### objectname

実行するプロシージャの名前を指定します。

### &&variablename

プロシージャ内の変数に値を割り当てます。変数名の長さは 1 文字から 17 文字、値の長さは 1 文字から 55 文字です。RUN コマンドでは、任意数の変数と値を指定できます。変数名は、先頭に 2 つのアンパーサンドを付け、引用符で囲む必要があります。

## 例

```
RUN PROC EXAMPLE_PROCEDURE (&&VAR='example_value'  
RU QUERY EXAMPLE_QUERY (&&VAR='example_value' rowlimit=5
```

---

## RUNTSO コマンド

RUNTSO コマンドは、Q.DSQQMFSP ストアード・プロシージャを CALL ステートメントから開始する場合に使用します。RUNTSO コマンドは、QMF for TSO で実行する照会またはプロシージャの名前を渡します。このコマンドで指定された照会またはプロシージャは、RUNTSO コマンドの実行対象であるサブシステム内の QMF カタログに存在していなければなりません。

## 構文

```
>>-RUNTSO-objectname--+-+-----+-<<  
      (+-Tracelevel=+-None-+  
          +-L2---+  
          +-All--+  
          +-Ptf--+  
      +-L2DESTINATION=None/Dsqdbuf-+  
      +-LANGUAGE=value-----+
```

## パラメーター

RUNTSO コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### objectname

QMF の開始後に実行する QMF プロシージャまたは照会の名前を指定します。すべてのタイプの QMF 照会が受け入れられます。プロシージャは、QMF 線形プロシージャ、またはロジックを持つプロシージャのいずれかです。

このパラメーターで指定された照会またはプロシージャは、ストアード・プロシージャ・インターフェース・コンポーネントがインストールされている QMF カタログ・サブシステムに存在していなければなりません。

指定したオブジェクトが照会である場合は、1 つの結果セットが返されます。TRACELEVEL パラメーターが L2 に設定され、L2DESTINATION パラメーター



ターが blank または null に設定されている場合は、最後の結果セットとして返されるトレース出力を含め、最大 21 の結果セットがプロシージャーから返されます。

## TRACELEVEL

トレースの詳細のレベルを指定します。有効な値は以下のとおりです。

### NONE

トレース出力を生成しません。これはデフォルト・オプションです。

**L2** QMF のメッセージおよびコマンドを最高の詳細レベルでトレースします。トレース出力の宛先は **L2DESTINATION** 設定によって異なります。

**ALL** 最高の詳細レベルで QMF アクティビティをトレースします。このレベルには、プログラム初期化エラーや、ユーザー・プロファイルの設定前に発生する可能性のあるその他のエラーが含まれます。トレース出力は、DSQDEBUG DD カードに送信されます。

**PTF** このオプションは、ストアード・プロシージャー・インターフェースが正常に実行されていることを確認する場合に使用します。IBM® ソフトウェア・サポートの担当者が指示しない限り、このオプションは使用しないでください。

## L2DESTINATION

TRACELEVEL が L2 に設定されている場合のトレース・ログの宛先を指定します。有効な値は以下のとおりです。

### NONE

トレース出力を、実行されるストアード・プロシージャーからの最後の結果セットとして返します。これがデフォルト値です。

### DSQDEBUG

トレース出力を DSQDEBUG DD カードに送信します。

## LANGUAGE

QMF が実行される言語を指定します。

このパラメーターには、次の表に示す 1 文字の言語 ID を使用できます。有効な値は以下のとおりです。

- **E** - 英語。QMF がこの言語に使用する名前は ENGLISH です。
- **U** - U/C 英語。QMF がこの言語に使用する名前は UPPERCASE です。
- **Q** - デンマーク語。QMF がこの言語に使用する名前は DANSK です。
- **C** - カナダ・フランス語。QMF がこの言語に使用する名前は FRANCAIS CANADIEN です。
- **F** - フランス語。QMF がこの言語に使用する名前は FRANCAIS です。
- **D** - ドイツ語。QMF がこの言語に使用する名前は DEUTSCH です。
- **I** - イタリア語。QMF がこの言語に使用する名前は ITALIANO です。
- **K** - 日本語。QMF がこの言語に使用する名前は NIHONGO です。
- **H** - 韓国語。QMF がこの言語に使用する名前は HANGEUL です。

- **P** - ブラジル・ポルトガル語。 QMF がこの言語に使用する名前は PORTUGUES です。
- **S** - スペイン語。 QMF がこの言語に使用する名前は ESPANOL です。
- **V** - スウェーデン語。 QMF がこの言語に使用する名前は SVENSKA です。
- **Y** - スイス・フランス語。 QMF がこの言語に使用する名前は FRANCAIS (SUISSE) です。
- **Z** - スイス・ドイツ語。 QMF がこの言語に使用する名前は DEUTSCH (SCHWEIZ) です。

デフォルト値は、DSQEC\_NLFCMD\_LANG 変数によって決まります。例えば、DSQEC\_NLFCMD\_LANG=0 の場合は、DSQAO\_NLF\_LANG が言語として使用されます。

DSQEC\_NLFCMD\_LANG=1 の場合は、E が使用されます。

## 例

```
RUNTSO Q.STAFF (TRACELEVEL=NONE L2DESTINATION=NONE LANGUAGE=E
```

---

## SAVE AS コマンド

SAVE AS コマンドは、現在エディターに表示されているオブジェクトをデータベースに保存します。

### 構文

SAVE AS コマンドは、オブジェクトを QMF カタログまたはワークスペースに保存する場合に使用します。

```
>>--SAve-+-Query-+-AS-objectname-(+-----+---<<
      +-Proc--+
                                +-CONfirm=Yes/No-+
                                +-Share=Yes/No---+
                                +-COMment=value--+
                                +-Folder=name----+
>>--SAve--Form-AS-objectname-(+-----+---<<
                                +-Language=value-+
                                +-CONfirm=Yes/No-+
                                +-Share=Yes/No---+
                                +-COMment=text---+
                                +-Folder=name----+
>>--SAve--Data-AS-tablename-(+-----+---<<
                                +-ACTion=value-----+
                                +-CONfirm=Yes/No----+
                                +-COMment=text-----+
                                +-SPACE=value-----+
                                +-ACCelerator=value-+
                                +-ACCELERATORDATABASE=name+
                                +-METHOD=method_name-----+
                                +-MODE=GRID/RAW-----+
                                +-RESULTSET=integer-----+
                                +-ROWIDADD=YES/NO-----+
                                +-ROWIDDISP=value-----+
                                +-ROWIDNAME=text-----+
                                +-ROWLimit=integer-----+
```

```
+--SPACE=value-----+
+-SPACE DATABASE=database-+
+-SCOPE=integer-----+
```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

SAVE AS コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### objectname

保存時にオブジェクト (照会、書式、プロシージャ、または表) に割り当てる名前。 `objectname` がデータベース内に既に存在する同タイプのオブジェクトを参照する場合、QMF は既存のオブジェクトを保存対象のオブジェクトで置き換えます。

オブジェクトをワークスペースに保存する場合は、`objectname` パラメーターの値として `rsbi:/.workspaces/WORKSPACENAME/OBJECTNAME` というストリングを入力します。

### tablename

データベース内の表の名前。オブジェクトが既に存在する場合、アプリケーションは SAVE コマンドの ACTION パラメーターの値に従って既存の表を置換または追加します。表が存在しない場合は、指定した列名とラベルを使用して新しい表が作成されます。

### ACTION

データベース表全体を置き換えるか、既存の表にデータを追加するかを指定します。有効な値は REPLACE と APPEND です。表は列数が同じ表に対してのみ置換または追加が可能であり、対応する列のデータ・タイプと長さは同じでなければなりません。対応する列のデータ・タイプまたは長さがないと、暗黙的キャスト用にご使用のデータベース管理ソフトウェアが提供するサポートのレベルに応じて、データ・タイプまたは長さがある値から別の値に自動的に変換される場合があります。

### LANGUAGE

書式を英語または現行セッション言語のどちらで保存するかを指定します。有効な値は ENGLISH と SESSION です。英語で保存された書式は、どの NLF セッションでも実行可能です。セッション言語で保存された書式は、同じ言語のセッションでのみ実行が可能です。

### CONFIRM

このコマンドの結果としてオブジェクトを置換または変更する前に確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。

### SHARE

他のユーザーが保存されたオブジェクトを使用できるかどうかを指定します。

### COMMENT

保存されるオブジェクトとともにコメントを保管します。コメント・テキストは、引用符、二重引用符、または括弧で囲ってください。

## **FOLDER**

オブジェクトを保存するフォルダーを指定します。

## **SPACE**

SAVE DATA コマンドで作成されたデータを保持するためのストレージ・スペースを指定します。ブランクの値は、デフォルトのストレージ・スペースが現行ロケーションのデータベースによって決まることを指定します。

## **SPACE DATABASE**

特定のデータベース・コンテナに表を保存するためのデータベース名を指定します。表スペースは、作成された表の名前で自動的に作成されます。このパラメーターは z/OS データベースでのみ使用されます。

## **ACCELERATOR**

表を保存するアクセラレーターの名前を指定します。

## **ACCELERATORDATABASE**

アクセラレーター専用表を保存するために使用するデータベースの名前を指定します。ACCELERATORDATABASE キーワードの長さは最大 128 文字です。ACCELERATORDATABASE パラメーターのデフォルト値は、DSQEC\_SAV\_ACCELDB グローバル変数から取得されます。DSQEC\_SAV\_ACCELDB グローバル変数の値が空でなければ、SPACE キーワードで指定されたデータベースは無視されます。

## **MODE**

照会結果セットを形式設定や追加の計算列とともに保存するかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。

**RAW** 照会結果セットを形式設定や追加の計算列なしで保存します。

**GRID** 照会結果セットを形式設定や追加の計算列とともに保存します。

## **METHOD**

照会結果セットの保存方法を指定します。有効な値は以下のとおりです。

### **REGULAR**

照会結果セット・データをクライアントからデータベース・サーバーに送り返し、そこで表に挿入します。

**FAST** サーバーで照会を再実行し、照会結果を表に直接挿入します。

### **FASTSAFE**

ORDER BY 節を指定せずにサーバーで照会を再実行し、照会結果を表に直接挿入します。

## **RESULTSET**

保存する結果セットの番号を指定します。

## **ROWIDADD**

行 ID 列を表に追加するかどうかを指定します。

## **ROWIDDISP**

新しい行 ID 列の後処理を指定します。

## **ROWIDNAME**

新しい行 ID 列の名前を指定します。

## SCOPE

データのコミット有効範囲を指定します。

### 例

```
SAVE QUERY AS QUERY1 (CONFIRM=NO
SA Q AS rsbi:/.workspaces/MY_WORKSPACE/QUERY1
```

---

## SAVE コマンド

SAVE コマンドは、データベースに既に保存されている、現在開いているオブジェクトの変更内容を保存します。オブジェクトがまだデータベースに保存されていない場合、QMF は、オブジェクトの保存場所を指定できるプロンプト・パネルを表示します。

### 構文

```
>>--SAve--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### 例

```
SAVE
SA
```

---

## SEARCH コマンド

SEARCH コマンドは、「検索」パネルを開く場合に表エディターで使用します。このパネルで、データベース表で検索する情報を指定できます。

### 構文

```
>>--SEArch--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### 例

```
SEARCH
SEA
```

---

## SET GLOBAL コマンド

SET GLOBAL コマンドは、既存のグローバル変数の値を設定するか、グローバル変数とその値を作成します。作成する変数の名前を DSQ 接頭部で始めることはできないことに注意してください。これはシステム・グローバル変数を識別するための接頭部です。システム・グローバル変数は追加することも削除することもできません。デフォルト値の編集のみが可能です。

### 構文

```
>>--Set Global-(+-variable_name=value-----+---<<
+-Lifetime=Current/Permanant-----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## パラメーター

SET GLOBAL コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### **variable\_name**

値を割り当てるグローバル変数の名前を指定します。

**value** グローバル変数に割り当てる値を指定します。

### **LIFETIME**

変数を使用できる期間を指定します。有効な値は以下のとおりです。

#### **CURRENT**

変数は現行セッションでのみ使用可能です (デフォルト値)。セッションが終了すると、変数は削除されます。

#### **PERMANENT**

変数は永続的に使用可能です。

## 例

```
SET GLOBAL (EXAMPLE_VARIABLE=EXAMPLE_VALUE
SET G(DSQEC_RUN_MQ=0
```

---

## SET INVISIBLE コマンド

SET INVISIBLE コマンドは、指定したローカル変数を「プロンプト変数」ダイアログで非表示にします。「プロンプト変数」ダイアログでは、非表示に設定された変数の値は要求されません。ローカル変数がすべて非表示に設定されている場合、「プロンプト変数」ダイアログは表示されません。

## 構文

```
>>--SEt-Invisible-(variablename1, variablename2, ...-----<<
```

## パラメーター

SET INVISIBLE コマンドには、variablename パラメーターを指定できます。有効な値は、「プロンプト変数」ダイアログで表示しない変数の名前です。

## 例

```
SET INVISIBLE (Var1, Var2
```

---

## SET KEY コマンド

SET KEY コマンドを使用すると、ファンクション・キーにコマンドを割り当てることができます。

## 構文

```
>>--SEt Key(+Panelid=+-ALL-----+--<<
          +-CURRENT-+
          +-panelid-+
          +-Keyid=keyid-----+
          +-Label=text-----+
          +-Command=text-----+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要なとなる最小文字セットを示しています。

## パラメーター

SET KEY コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

### PANELID

設定するキーがあるパネルを指定します。可能な値は以下のとおりです。

- ALL - 指定したキーを、そのキーを使用するすべてのパネルで設定できません。
- CURRENT - 指定したキーを、現在開いているパネルで設定できます。
- panelid - 指定したキーを、PANELID パラメーターの値として指定した ID を持つパネルで設定できます。 QMF パネルとその ID の完全なリストを表示するには、103 ページの『付録 H. QMF パネルの ID』を参照してください。

### KEYID

設定するファンクション・キーの番号を指定します。有効な値は 1 から 24 までの整数です。

### LABEL

キーに関連するラベル・テキストを指定します。 LABEL パラメーターの値に複数の語が含まれている場合は、値全体を引用符で囲む必要があります。

### COMMAND

キーに割り当てるコマンドを指定します。 COMMAND パラメーターの値に複数の語が含まれている場合は、値全体を引用符で囲む必要があります。

## 例

```
SET KEY(PANELID=FQMPHOME, KEYID=5, LABEL=GLOBALS, COMMAND="SHOW GLOBALS")
SET KEY(P=FQMPHOME, K=5, L=GLOBALS, C="SHOW GLOBALS")
```

---

## SET LOCAL コマンド

SET LOCAL コマンドは、既存のローカル変数の値を設定するか、新しいローカル変数を作成してその変数に値を割り当てます。 SET LOCAL コマンドで作成された変数は、現行オブジェクト (照会、報告書) でのみ使用可能で、グローバル変数リストには表示されず、他のプロシージャに影響を与えることもありません。

## 構文

```
>>--SEt-Local-(variablename=value, ...--<<
```

## パラメーター

SET LOCAL コマンドには、variablename パラメーターを指定できます。このパラメーターは、設定または作成するローカル変数の名前を指定します。ローカル変数名の長さは 1 文字から 17 文字です。DSQ で始まる名前の変数には制約があり、作成や削除はできません。

ローカル変数の値の長さは 1 文字から 55 文字です。DSQ で始まる名前の変数の値には制約があります。

## 例

```
SET LOCAL (Var1=abc, Var2=def
```

---

## SET LOCAL WITH VALUES コマンド

SET LOCAL WITH VALUES コマンドは、ローカル変数の選択可能な値のセットを作成します。このコマンドを発行すると、「プロンプト変数」ダイアログで事前定義値の 1 つを選択するか、手動で別の値を入力することができます。

## 構文

```
>>-SEt-Local-With-Values-(variablename=value1; value2;...-<<
```

## パラメーター

SET LOCAL WITH VALUES コマンドには、variablename パラメーターを指定できます。このパラメーターは、設定または作成するローカル変数の名前を指定します。ローカル変数名の長さは 1 文字から 17 文字です。DSQ で始まる名前の変数には制約があり、作成や削除はできません。

変数に指定された値は、「プロンプト変数」ウィンドウで選択できます。値の長さは 1 文字から 55 文字までです。DSQ で始まる名前の変数の値には制約があります。

## 例

```
SET LOCAL WITH VALUES (Var1=abc; def, Var2=ghi
```

---

## SET OPTIONS コマンド

SET OPTIONS コマンドは、プロシージャの実行オプションを指定します。

## 構文

```
>>-SEt-Options--+-----+----<<  
                (+-SToponerror=Yes/No-----+  
                +-SUPpressmessages=value-+
```

## パラメーター

SET OPTIONS コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。



## STOPONERROR

エラーが発生したときにプロシージャの実行を停止するかどうかを指定します。有効な値は YES と NO です。

STOPONERROR パラメーターに値を指定しない場合、値は DSQQW\_PROC\_FAIL\_ON\_ERROR グローバル変数から取得されます。

## SUPPRESSMESSAGES

プロシージャの実行中に抑止するメッセージのタイプを指定します。有効な値は以下のとおりです。

- ALL - すべてのメッセージを抑止します。
- INFORM - 情報メッセージを抑止します。
- ERROR - エラー・メッセージを抑止します。

## 例

```
SET OPTIONS (STOPONERROR=YES SUPPRESSMESSAGES=ALL
```

---

## SHOW コマンド

SHOW コマンドは、指定したパネルを表示します。

### 構文

```
>>-SHoW--+Query-----+-----+<<
                (+-View=value-----+
                +-Resultset=value-----+
+-Proc-----+
+-Globals-----+
+-Home-----+
+-REPort-----+
+-Keys-----+-----+
                (+-PANELID=panel_id++
+-FORM-----+-----+
                +-.Main-----+
                +-.BREAK-----+
                +-.COLumns-----+
                +-.CONDitions-+
                +-.Detail-+-----+
                (+-Variation=value-+
                +-.Options-----+
                +-.Page-----+
                +-.Final-----+
                +-.CALc-----+
+-Field-----+
+-Actions-----+
+-FAvorites-----+
+-RECentlyused-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

SHOW FORM.DETAIL コマンドには、VARIATION パラメーターを指定できます。このパラメーターは、表示する詳細バリエーションを指定します。このオプションを省略すると、現在の詳細バリエーションが表示されます。有効な値は 1 から 99 までの整数です。指定した詳細バリエーションがまだ作成されていない場合、この数値は

既存の全詳細バリエーションに続く次の順序番号まで減らされ、新しい詳細バリエーションが作成されます。そのため、新しい詳細バリエーションを作成するには、SHOW FORM.DETAIL コマンドの VARIATION パラメーターの値として 99 を入力します。

SHOW QUERY コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

**VIEW** ターゲット照会ビューのタイプを指定します。有効な値は SQL、PROMPTED、および RESULTS です。

#### **RESULTSET**

表示する結果セットの番号を指定します。

注: このパラメーターは、VIEW パラメーターの値が RESULTS に設定されている場合にのみ使用可能です。

SHOW KEYS コマンドには、PANELID パラメーターを指定できます。このパラメーターは、表示するファンクション・キーのセットがあるパネルの ID を指定します。QMF のパネルとその ID の完全なリストが「入門QMF Z Client」ガイドにあります。

SHOW FIELD コマンドは、パネル上のフィールドまたは行に関する詳細情報を表示し、以下の状況で発行できます。

- 「グローバル」パネルで、グローバル変数に関する情報を個別のパネルで表示または編集する。
- 「オブジェクト・リスト」パネルで、「アクション」フィールドの入力域を拡大する。
- 表エディターとその他のいくつかのパネルで、フィールドの入力域を拡大する。
- キー・エディターで、ファンクション・キーの定義を表示または変更する。

#### **例**

```
SHOW QUERY
SHOW PROC
SHOW FORM.MAIN
SHOW FORM.DETAIL (VARIATION=2
SHOW FORM.DETAIL (VARIATION=99
```

---

## **SORT コマンド**

SORT コマンドは、データベース・オブジェクトのリスト内の項目をソートします。SORT コマンドを入力するか、「ソート」ファンクション・キーを押すと、ソート・オプションを指定できるパネルが表示されます。

#### **構文**

```
>>--Sort--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

例  
SORT  
SO

---

## SPECIFY コマンド

SPECIFY コマンドは、「指示照会」パネルと「Form.Columns」パネルでのみ使用できます。SPECIFY コマンドは、照会結果セット列の配置オプションの指定、計算列を定義するための式の入力（「Form.Columns」パネル）、または指示照会を構成するために必要な情報の指定（「指示照会」パネル）を行うことができるパネルを表示します。

### 構文

「Form.Columns」パネルの場合:

```
>>--SPecify--+-+-----+--<<  
          +-Alignment--+  
          +-Definition-+
```

「指示照会」パネルの場合:

```
>>--SPecify--+-+-----+--<<  
          +-Columns----+  
          +-Joins-----+  
          +-Rows-----+  
          +-Sort-----+  
          +-Tables-----+
```

各図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

パラメーターを指定せずに SPECIFY コマンドを発行すると、「指定」パネルが開きます。このパネルでは、以下のいずれかの項目を選択できます。

表 「表」パネルを開きます。このパネルでは、照会で使用する表を指定できます。

列 「列」パネルを開きます。このパネルでは、照会結果セットに含める列を指定できます。

#### 結合条件

「結合」パネルを開きます。このパネルでは、照会内の表の結合オプションを指定できます。

#### 行条件

「行条件」パネルを開きます。このパネルでは、行条件を指定できます。

#### ソート条件

「ソート条件」パネルを開きます。このパネルでは、ソート条件を指定できます。

SPECIFY コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

## ALIGNMENT

「配置」パネルを開きます。このパネルでは、報告書の列のテキスト配置オプションを指定できます。

## DEFINITION

「定義」パネルを開きます。このパネルでは、計算列を定義する式を入力できます。

## COLUMNS

「列」パネルを開きます。このパネルでは、照会結果セットに含める列を指定できます。

## JOINS

「結合」パネルを開きます。このパネルでは、照会内の表の結合オプションを指定できます。

## ROWS

「行条件」パネルを開きます。このパネルでは、行条件を指定できます。

## SORT

「ソート条件」パネルを開きます。このパネルでは、ソート条件を指定できます。

## TABLES

「表」パネルを開きます。このパネルでは、照会で使用する表を指定できます。

## 例

SPECIFY

SP

---

## SWITCH コマンド

SWITCH コマンドは、「行条件」域と「ソート条件」域を表示するために指示照会エディターで使用します。SWITCH COMMENT コマンドは、「コメント」フィールドを表示するために「オブジェクト・リスト」パネルで使用します。

### 構文

```
>>--Switch-+-----+---<<
          +-Comment-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

SWITCH コマンドは、「指示照会エディター」パネルの「コマンド」行から発行でき、「行条件」域および「ソート条件」域と、「表」域、「列」域、および「結合」域とを切り替えることができます。

SWITCH COMMENT コマンドは、「オブジェクト・リスト」パネルの「コマンド」行から発行でき、「変更日時」フィールドおよび「作成日」フィールドと、「コメント」フィールドとを切り替えることができます。

## 例

```
SWITCH  
SWITCH COMMENT  
SW C
```

---

## TOP コマンド

TOP コマンドは、スクロール可能域を上方向にスクロールします。TOP は BACKWARD MAX と同等です。

### 構文

```
>>--TOP--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

## 例

```
TOP  
TO
```

---

## TSO コマンド

TSO コマンドは、QMF セッションを終了せずに TSO 環境でコマンドを入力する場合に使用します。

### 構文

```
>>--TSO---commandstring--<<
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

TSO コマンドには `commandstring` パラメーターを指定できます。`commandstring` パラメーターは、TSO 環境で有効なコマンドまたは EXEC を構成する文字ストリングです。

TSO という語の後に来る文字はすべて TSO に送られ、そこで解釈されます。

実行が正常に行われると、TSO コマンドを入力した元の QMF パネルに戻ります。実行が失敗すると、TSO コマンドを入力した元の QMF パネルに戻り、TSO からエラー・メッセージを受け取ります。

## 例

TSO SEND コマンドを使用してユーザー JOHN5 にメッセージを送信するには、次のように入力します。

```
TSO SEND 'I RECEIVED YOUR PROC2. THANK YOU.' USER(JOHN5)
```

---

## USE REPOSITORY コマンド

USE REPOSITORY コマンドは、指定されたりポジトリへの接続を確立します。

### 構文

```
>>--Use Repository---repositoryname-----<<
      (+-User=value-----+
      +-Password=value----+
      +-DBUser=value-----+
      +-DBPassword=value-+
```

図に含まれる大文字は、コマンドの実行に必要な最小文字セットを示しています。

### パラメーター

USE REPOSITORY コマンドに指定できるパラメーターは以下のとおりです。

#### **repositoryname**

接続先のリポジトリの名前を指定します。名前は必ず二重引用符で囲んでください。

**USER** 保護されたりポジトリへの接続に使用するユーザー名を指定します。

#### **PASSWORD**

保護されたりポジトリへの接続に使用するパスワードを指定します。

#### **DBUSER**

指定したりポジトリのデータベースへの接続に使用するユーザー名を指定します。

#### **DBPASSWORD**

指定したりポジトリのデータベースへの接続に使用するパスワードを指定します。

### 例

```
USE REPOSITORY "Default"
U R SomeRepository (USER=user PASSWORD=password
```

## 付録 D. システム・グローバル変数

システム・グローバル変数は、QMF セッション、QMF コマンド、およびパネル表示の多種多様な側面を制御する場合に使用します。

### DSQQW グローバル変数

DSQQW で始まる名前のグローバル変数は、現行照会環境に関する情報を提供します。

現在、以下の DSQQW グローバル変数が使用可能です。

名前	長さ	説明
DSQQW_AUTOMATION	1	アプリケーションが自動化サーバーとして始動したかどうかを示します。
DSQQW_CONNECTIONS	1	プロシージャーの実行中にデータベース・サーバー接続の使用を制御します。値は接続数を最小化するにはゼロ (0)、RUN QUERY コマンドごとに新しい接続を許可するには (1) です。値 0 を指定すると、分散製品は、プロシージャーの実行を続行する前にデータ・オブジェクトを強制的にリセットまたは完了します。デフォルト値は 1 です。
DSQQW_DQ	1	二重引用符の値。この変数を照会とプロシージャーに使用することにより、ユーザーがテキスト値と一緒に引用符を入力する必要がなくなります。デフォルト値は二重引用符です。
DSQQW_EXP_DT_FRMT	1	プロシージャー内で EXPORT DATA コマンドでデータをエクスポートするときに使用する形式。以下の値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 0: テキスト形式</li><li>• 2: HTML 形式</li><li>• 3: CSV 形式</li><li>• 4: IXF 形式</li><li>• 5: dBASE III ファイル</li><li>• 6: XML 形式</li><li>• 7: PDF 形式</li><li>• 8: XLS 形式</li><li>• 9: XLSX 形式</li></ul>

名前	長さ	説明
DSQQW_EXP_OUT_MDE	1	IXF ファイルにデータをエクスポートするときに使用する IXF バリエーション。 値は、System/370 文字モード IXF の場合は 0、PC/IXF の場合は 1 です。 デフォルト値は 1 です。
DSQQW_FST_SV_DATA	1	プロシージャ内で SAVE DATA コマンドによりデータを保存するときの「高速モード」の使用を制御します。通常保存モード (高速モードではない) を使用する場合は値を 0 に、ORDER BY 文節を除去して高速モードを使用する場合は値を 1 に、ORDER BY 文節を保持して高速モードを使用する場合は値を 2 にできます。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_HTML_REFTEXT	55	&REF 変数を使用するときに報告書に表示されるテキスト。 デフォルト値は「戻る」です。
DSQQW_ORIENTATION	0	アプリケーションの方向。 左から右への方向の場合、値は 0 です。 右から左への方向の場合、値は 1 です。
DSQQW_PROC_FAIL_ON_ERROR	1	プロシージャ・コマンドの失敗があった場合にプロシージャの実行を停止します。プロシージャを続行する場合は値を 0 にします。プロシージャを停止する場合は値を 1 にします。
DSQQW_PROC_OUTPUT		プロシージャの出力ファイル名。
DSQQW_PROC_WNDWS	1	プロシージャを実行することで作成された中間結果ウィンドウに対する処理を制御します。 値が 0 の場合、プロシージャの終了時には、すべての中間ウィンドウが閉じられ、最終結果ウィンドウのみが開かれたままになります。 値が 1 の場合、プロシージャの終了時には、すべてのウィンドウが開かれたままになります。 値が 2 の場合、すべての中間ウィンドウが閉じられ、プロシージャ・ウィンドウも閉じられます (プロシージャを別のプロシージャから、またはコマンド行から間接的に実行している場合)。デフォルト値は 1 です。



名前	長さ	説明
DSQQW_QUERY_LANG	1	DISPLAY QUERY コマンドが実行されても照会オブジェクトが存在しない場合に作成される照会のサブタイプを指定します。値は、SQL ビューの照会の場合には 0、指示照会ビューの照会の場合には 1 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_QUERY_PREP	1	RUN コマンドでの照会を準備するか、実行するかを指定します。準備された照会の結果は、ユーザーのワークステーションには返されません。値は、照会を準備する場合は 0、照会を実行する場合は 1 です。デフォルト値は 1 です。
DSQQW_QUERY_PRESERVE_SORT	1	これは、ユーザーが定義した照会ソート順序が照会内に保管されて照会実行のたびに使用されるのかどうかを指定します。値は 0 (ソート順序を保持しない) または 1 (ソート順序を保持する) にすることができます。デフォルト値は 1 です。
DSQQW_REMOTE_LAUNCH	1	これは、分析照会をサーバーで実行するのかクライアント・マシンで実行するのかを指定します。値は、分析照会をクライアント・マシンで実行する場合は 0 (ゼロ)、分析照会をサーバーで実行する場合は 1 です。分析照会をサーバーで実行する場合に、分析照会が大きければ、実行速度が向上する可能性があります。このグローバル変数は、Web サービス・リポジトリ接続を使用している場合にのみ使用できます。 注: 分析照会のいずれかのノードにプロンプト階層が含まれる場合、照会はローカル・マシンで実行されます。
DSQQW_REUSE_OBJS	1	検索されたオブジェクトを表示している既存のウィンドウを再使用するかどうか、またはオブジェクトを選択するたびに新しいウィンドウを開くかどうかを指定します。常にオブジェクトを新しいウィンドウで開く場合には値をゼロ 0 にし、選択されたオブジェクトが既に開かれている場合には既存のウィンドウをアクティブにするには 1 にします。デフォルト値は 1 です。

名前	長さ	説明
DSQQW_RPT_COPIES	10	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときに印刷する部数を指定します。デフォルト値は 1 です。
DSQQW_RPT_FONT	55	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときに使用するフォント字体名を指定します。デフォルト値は "Monospaced" です。
DSQQW_RPT_FONT_BD	1	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときに使用するフォントの太字属性を指定します。値は、太字にしない場合は 0、太字にする場合は 1 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_RPT_FONT_CS	3	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときに使用するフォントの文字セットを指定します。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_RPT_FONT_IT	1	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときに使用するフォントのイタリック属性を指定します。値は、イタリックにしない場合は 0、イタリックにする場合は 1 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_RPT_FONT_SZ	2	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときに使用するフォントのポイント・サイズを指定します。デフォルト値は 10 です。
DSQQW_RPT_LEN_TYP	1	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するとき、または EXPORT REPORT コマンドにより報告書をエクスポートするときのページ長のタイプを指定します。値は印刷ページに自動的に長さを合わせる場合は 0、明示的な行数を指定する場合は 1、ページの切れ目なしに連続した報告書を指定する場合は 2 です。デフォルト値は 0 です。

名前	長さ	説明
DSQQW_RPT_NUM_CHR	10	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するとき、または EXPORT REPORT コマンドにより報告書をエクスポートするとき印刷ページの幅に合わせる文字数を指定します。この値は、DSQQW_RPT_WID_TYP が 1 の場合にのみ有効です。デフォルト値は 80 です。
DSQQW_RPT_NUM_LNS	10	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するとき、または EXPORT REPORT コマンドにより報告書をエクスポートするとき印刷ページの長さに合わせる行数を指定します。この値は、DSQQW_RPT_LEN_TYP が 1 の場合にのみ有効です。デフォルト値は 60 です。
DSQQW_RPT_ORIENT	1	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するとき、または EXPORT REPORT コマンドにより報告書をエクスポートするとき使用するページの向きを指定します。値は、縦長の場合は 0、横長の場合は 1 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_RPT_OUT_TYP	1	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するとき使用する書式を指定します。値は、テキストの場合は 0、HTML の場合は 2 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_RPT_TD_TYP	1	TD 編集コードの日付形式。値は、ISO 形式の場合は 0、USA 形式の場合は 1、EUR 形式の場合は 2、JIS 形式の場合は 3 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_RPT_TT_TYP	1	TT 編集コードの時刻形式。値は、ISO 形式の場合は 0、USA 形式の場合は 1、EUR 形式の場合は 2、JIS 形式の場合は 3 です。デフォルト値は 0 です。

名前	長さ	説明
DSQQW_RPT_USE_PS	1	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときに使用するページ・フォーマット・オプション (ページ長、ページ幅など) を指定します。値は PRINT REPORT コマンドまたはグローバル変数に指定された値を使用する場合は 0、書式のページ設定で指定した値を使用する場合は 1 になります。デフォルト値は 1 です。
DSQQW_RPT_WID_TYP	1	プロシージャ内で PRINT REPORT コマンドにより報告書を印刷するときのページ幅のタイプを指定します。値は、印刷ページに自動的に幅を合わせるときは 0、明示的な文字数を指定する場合は 1、ページの切れ目なしに連続した行数を指定する場合は 2 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_SHOW_QUERY	1	SHOW QUERY コマンドがプロシージャから発行されたときに表示する照会のビューを指定します。有効な値は、「SQL」ビューまたは「指示照会 (Prompted)」ビューの場合は 0 (ゼロ)、「結果」ビューの場合は 1 です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_SQ	1	単一引用符の値。この変数を照会とプロシージャに使用することにより、ユーザーがテキスト値と一緒に引用符を入力する必要がなくなります。デフォルト値は単一引用符 (') です。
DSQQW_SV_DATA_C_S	10	プロシージャ内で SAVE DATA コマンドによりデータを保存するときに、作業単位をコミットするまでに挿入する行数。値はすべての行で 0 または明示的な行数です。デフォルト値は 0 です。
DSQQW_SV_DATA_T_M	1	SAVE DATA コマンド使用時に、ソース列とターゲット列のデータ・タイプをどのように一致させるかを指定します。値は、厳密なデータ・タイプの一致を必要とする場合は 0、データ損失のないデータ・タイプ変換を許可する場合は 1、データベースでサポートされているデータ・タイプ変換をすべて許可する場合は 2 です。デフォルト値は 1 です。

名前	長さ	説明
DSQQW_UEDIT_JAR	55	ユーザー編集ルーチンが含まれている JAVA アーカイブ・ファイルの名前。

## DSQAO グローバル変数

DSQAO で始まる名前のグローバル変数は、照会セッションの現在状態に関する情報を提供します。

以下の DSQAO グローバル変数が使用可能です。

名前	長さ	説明
DSQAO_BATCH	1	バッチ・モードまたは対話モード。値は、対話セッションの場合は 1、バッチ・セッションの場合は 2 になります。BATCH コマンド行パラメーターを参照してください。
DSQAO_CONNECT_ID	8	現在のデータベースへの接続に使用されるユーザー ID。
DSQAO_CURSOR_OPEN	1	現在の照会オブジェクトのデータベース・カーソルの状況。値はカーソルがオープンしている場合は 1、クローズしている場合は 2 になります。
DSQAO_DBCS	1	DBCS サポート状況。値は DBCS をサポートしている場合は 1、サポートしていない場合は 2 になります。

名前	長さ	説明
DSQAO_HOME_WORKSPACE	128	<p>現行リポジトリ・ユーザーのホーム・ワークスペース・キー (ワークスペースがある場合)。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>rsbi:/.workspaces/&lt;user name&gt;</li> </ul> <p>ユーザーが保護されたりリポジトリ接続に接続した場合、および rsbi:/.workspaces/&lt;user name&gt; オブジェクトがそのリポジトリ内の現行ユーザーから可視である場合は、これが値となります。&lt;user name&gt; はリポジトリ・ユーザーのログイン名です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>rsbi:/.workspaces</li> </ul> <p>ユーザーがセキュリティーのないリポジトリ接続に接続した場合、rsbi:/.workspaces/&lt;user name&gt; がユーザーから可視でない場合、または同値が存在しない場合は、これが値となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>blank</li> </ul> <p>上記の状態が該当しない場合は、これが値となります。例えば、ユーザーがどのリポジトリ接続にも接続していない場合などが考えられます。</p> <p>注: 現行ユーザーが実行したワークスペース操作 (作成、削除、名前変更など) は、グローバル変数の値に影響を与えます。また、このような操作を他のユーザーが実行した場合も、値に影響を与える可能性があります。</p>
DSQAO_NLF_LANG	1	セッションの各国語。 値は英語の場合「E」です。
DSQAO_NUM_FETCHED	0	現在の照会オブジェクトで取り出された行数。
DSQAO_OBJ_NAME	18	現在の照会、書式、プロシージャー・オブジェクトの名前。現行オブジェクトがない場合、値はブランクになります。
DSQAO_OBJ_OWNER	8	現在の照会、書式、プロシージャー・オブジェクトの所有者。 現行オブジェクトがない場合、値はブランクになります。
DSQAO_REP_USER	8	現行リポジトリへの接続に使用するユーザー名。
DSQAO_QMF_RELEASE	2	アプリケーションのリリース番号。
DSQAO_QMF_VER_RLS	10	アプリケーションの外部バージョン番号およびリリース番号。
DSQAO_QUERY_MODEL	1	現在の照会オブジェクトのモデル。 値は、リレーショナルの場合は 1 です。

名前	長さ	説明
DSQAO_QRY_SUBTYPE	1	現在の照会オブジェクトのサブタイプ。値は、SQL 照会の場合には 1、指示照会ビューの照会の場合には 3 です。
DSQAO_SYSTEM_ID	1	現在のオペレーティング・システム。これは、以下の値のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 8 - Windows NT 以上</li> <li>• 9 - Linux</li> <li>• 10 - HP-UX</li> <li>• 11 - AIX®</li> <li>• 12 - Solaris</li> <li>• 13 - iSeries</li> <li>• 14 - z/OS®</li> </ul>

## DSQEC グローバル変数

DSQEC で始まる名前のグローバル変数は、コマンドやプロシーチャーの実行方法を制御します。

以下の DSQEC グローバル変数が使用可能です。

名前	長さ	説明
DSQEC_CON_ACC_RES	1	<p>アプリケーションが Db2 for z/OS にサブミットする実行可能 SELECT 照会でこの変数を使用すると、選択するデータが挿入、更新、または削除操作によってロックされている場合に、データベースを処理する方法を指定できます。この変数を設定すると、SELECT 照会の PREPARE ステートメントの concurrent-access-resolution 属性で変数値に関連付けられた文節がアプリケーションによって指定されます。実行可能 SELECT 照会は、照会 (SQL SELECT 照会、指示照会、QBE P. 照会など) の結果となるだけでなく、他の操作 (DISPLAY TABLE など) の結果となる場合もあります。指定可能な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 0 - 処理中の SQL SELECT ステートメントに関連付けられた PREPARE ステートメントで、同時アクセス解決のオプションが指定されません。これがデフォルト値です。</li><li>• 1 - SKIP LOCKED DATA。この値は、DB2<sup>®</sup> for z/OS バージョン 9 とバージョン 10、および Db2 for z/OS バージョン 11 以降に送信される実行可能 SELECT ステートメントに対して指定できます。</li><li>• 2 - USE CURRENTLY COMMITTED。この値は、DB2 for z/OS バージョン 10 および Db2 for z/OS バージョン 11 以降に送信される実行可能 SELECT ステートメントに対して指定できます。</li><li>• 3 - WAIT FOR OUTCOME。この値は、DB2 for z/OS バージョン 10 および Db2 for z/OS バージョン 11 以降に送信される実行可能 SELECT ステートメントに対して指定できます。</li></ul>
DSQEC_CURR_FOLDER	128	<p>この変数は、QMF カタログ内のフォルダーにあるオブジェクトへのリンクをグループ化するために使用します。値は、Db2 データベースの LIST コマンド、SAVE コマンド、および ERASE コマンドの FOLDER パラメーターのデフォルト値として使用されます。長さは 128 文字まで可能です。この変数のデフォルトはブランクです。LIST コマンド、SAVE コマンド、ERASE コマンドにフォルダーは使用されません。</p>



名前	長さ	説明
DSQEC_EXTND_STG	31	<p>QMF for TSO の拡張ストレージにデータがスビルした場合に、アプリケーションが拡張ストレージ・マネージャーに要求するたびに獲得する拡張ストレージの容量 (メガバイト数) を指定します。拡張ストレージを必要とする操作をユーザーが実行すると、その操作が完了するか拡張ストレージを使い果たすまで、アプリケーションは拡張ストレージ・マネージャーに対して指定容量を求める要求を繰り返し発行します。このグローバル変数を設定する場合は、ユーザーが扱う DATA オブジェクトの平均サイズを考慮してください。平均サイズが非常に大きい場合に</p> <p>DSQEC_EXTND_STG 変数の設定値が小さすぎると、アプリケーションは DATA オブジェクトの完了までに拡張ストレージ・マネージャーを何度も呼び出さなければならないため、全般的なパフォーマンスに影響する可能性があります。設定できる値の範囲は 1 から 1000 までです。デフォルト値は 25 で、これはアプリケーションが要求ごとに 25 MB のストレージを要求することを示します。</p>
DSQEC_FORM_LANG	1	<p>書式が保存またはエクスポートされるデフォルトの NLF 言語を定義します。値は、メインの NLF 言語の場合は 0、英語の場合は 1 です。デフォルト値は 1 です。</p>
DSQEC_LAST_RUN	1	<p>Q.OBJECT_DIRECTORY 表の LAST_USED 列を更新するコマンド・セットを指定します。指定可能な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - 任意のアクティビティーで LAST_USED 列が更新されません。</li> <li>• 1 - RUN、SAVE、または IMPORT コマンドの実行時に LAST_USED 列が更新されます。</li> </ul>
DSQEC_LIST_OWNER	128	<p>LIST コマンドの OWNER パラメーターに対してデフォルト値を提供します。128 文字までの許可 ID を指定してください。この変数は、デフォルトでは空白であり、現在の許可 ID が所有するオブジェクトのリストが表示されます。変数値には選択記号を使用できます。単一文字の代わりに下線 ( ) を使用し、ゼロ以上の文字の代わりに % 記号を使用してください。例えば、以下のコマンドを発行した後に LIST コマンドを発行すると、アプリケーションは、文字 RO で始まるユーザー ID が所有するオブジェクトのみをリストします。</p> <p>SET GLOBAL (DSQEC_LIST_OWNER=R0%以下のコマンドは、デフォルトの所有者を、I で始まり、2 桁目と残りの桁に任意の文字を持つユーザー ID に設定します。</p> <p>SET GLOBAL (DSQEC_LIST_OWNER=I_%</p>
DSQEC_NLFCMD_LANG	1	<p>プロシージャー内のコマンドに必要な NLF 言語を定義します。値は、メインの NLF 言語の場合は 0、英語の場合は 1 です。デフォルト値は 0 です。</p>
DSQEC_RESET_RPT	1	<p>パフォーマンスに影響を与える不完全なデータ・オブジェクトが見つかった場合に、ユーザーにプロンプトを表示するかどうかを指定します。値は、プロンプトを表示せずにデータ・オブジェクトを完了する場合は 0、データ・オブジェクトを完了するかどうかを確認するプロンプトを表示する場合は 1、プロンプトを表示せずにデータ・オブジェクトをリセットする場合は 2 です。</p>

名前	長さ	説明
DSQEC_RUN_MQ	1	<p>RUN QUERY コマンドが SQL 照会内の複数のステートメントをサポートするかどうかを指定します。指定可能な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - 複数の SQL ステートメントはサポートされません。</li> </ul> <p>この変数を 0 に設定し、複数のステートメントを含む SQL 照会を実行すると、アプリケーションは最初のセミコロンより後のステートメントをすべて無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 複数の SQL ステートメントがサポートされます。</li> </ul> <p>これがデフォルト値です。</p> <p>セミコロンは、各ステートメントの末尾に付けることができます。</p> <p>SQL テキストの先頭に SET STATEMENT DELIMITER コメントを使用すると、セミコロンの代わりに別の文字を使用できます。以下に、複数のステートメントを持つ SQL の有効な使用例を示します。</p> <pre>--SET STATEMENT DELIMITER="!" select * from q.staff! select * from q.org</pre>
DSQEC_SAV_ACCELDB	128	<p>アクセラレーター専用表の保存に使用するデータベースの名前を指定します。</p>
DSQEC_SAV_ACCELNM	128	<p>SAVE DATA コマンド、IMPORT TABLE コマンド、および RUN QUERY コマンド (TABLE キーワードを指定) からアクセラレーター専用表を作成するときに使用するアクセラレーターのデフォルト名が含まれています。この変数は、照会加速が使用可能であり、ACCELERATOR キーワードが指定されていない場合にのみ参照されます。DSQEC_SAV_ALLOWED グローバル変数の値が 2、4、または 5 に設定されていない場合、このグローバル変数はブランクのままにできます。</p>

名前	長さ	説明
DSQEC_SAV_ALLOWED	1	<p>このフィールドは、ユーザーが SAVE DATA コマンド、IMPORT TABLE コマンド、および RUN QUERY コマンド (TABLE キーワードを指定) を使用して、データをデータベース表またはアクセラレーター表のいずれに保存できるかを指定します。このグローバル変数で使用可能な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - ユーザーはデータを一切保存できないことを指定します。</li> <li>• 1 - ユーザーはデータベース表にのみデータを保存できることを指定します。デフォルトでは、この値が選択済みになっています。</li> <li>• 2 - ユーザーはアクセラレーター表にのみデータを保存できることを指定します。このオプションを選択する場合、DSQEC_SAV_ACCELNM グローバル変数には、デフォルトで使用するアクセラレーターの名前が含まれていなければなりません。DSQEC_SAV_ACCELNM グローバル変数は ACCELERATOR キーワードで上書きすることができます。アクセラレーター専用表を複数のアクセラレーターにコピーすることはできません。</li> <li>• 3 - ユーザーはデータをデータベース表またはアクセラレーター表のいずれかに保存できることを指定します。SPACE や ACCEL などのコマンド・キーワードの指定変更がない場合、データはデータベース表に保存されます。</li> <li>• 4 - ユーザーはデータをデータベース表またはアクセラレーター表のいずれかに保存できることを指定します。SPACE や ACCELERATOR などのコマンド・キーワードの指定変更がない場合、データはアクセラレーターに保存されます。このオプションを選択する場合、DSQEC_SAV_ACCELNM グローバル変数には、デフォルトで使用するアクセラレーターの名前が含まれていなければなりません。</li> <li>• 5 - ユーザーはデータをアクセラレーター・シャドー表に保存できることを指定します。これらの表はデータベースに保存されますが、加速されたデータ読み取り照会もサポートしているため、アクセラレーターにも保存できます。このオプションを選択する場合、DSQEC_SAV_ACCELNM グローバル変数には、使用するアクセラレーターの名前が含まれていなければなりません。アクセラレーター・シャドー表は複数のアクセラレーターにコピーできます。</li> </ul>
DSQEC_SHARE	1	<p>保存されたオブジェクトを他のユーザーと共有するかどうかのデフォルト値を指定します。値は、オブジェクトを共有しない場合は 0、オブジェクトを共有する場合は 1 です。</p>
DSQEC_SP_RS_NUM	1	<p>ストアード・プロシージャについて表示される結果セットの番号を指定します。デフォルトの結果セット番号は -1 です。</p>

名前	長さ	説明
DSQEC_SQLQRYSZ_2M	1	<p>長さが 32,767 バイト (32 KB) を超える SQL 照会を RUN QUERY コマンドがサポートするかどうかを制御します。指定可能な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - DB2 for iSeries、Db2 for z/OS、または Db2 for Linux, UNIX, and Windows データベースに送信される SQL 照会は 32,767 バイト (32 KB) に制限されます。</li> <li>• 1 - 32 KB を超える SQL 照会を使用できます。DB2 for iSeries または Db2 for Linux, UNIX, and Windows に送信される照会の最大サポート・サイズは 65 KB の長さまでに行うことができます。サポートされる最大照会サイズは、照会の送信先のデータベースのタイプによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Db2 for z/OS に送信される照会の最大長は 2 MB です。</li> <li>- DB2 for iSeries または Db2 for Linux, UNIX、および Windows に送信される照会の最大長は 65 KB です。</li> </ul> </li> </ul> <p>これらの最大サイズは、RUN QUERY コマンドの送信先のデータベースのバージョンがこのサイズの照会をサポートしていることを前提としています。DB2 for VM/VSE に送信される SQL 照会は、8 KB までに制限されます。</p> <p>デフォルト値は 1 です。</p>
DSQEC_USERGLV_SAV	1	<p>これは、現行 QMF セッションでユーザーによって作成または編集されたグローバル変数がセッションの終了時に保存されるかどうかを決定します。保存された変数と値は、QMF セッションが次に開始されたときに復元されます。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - セッションが次に開始されたときに、すべてのシステム・グローバル変数がデフォルト状態に復元されます。ユーザー定義のグローバル変数はすべて破棄されます。</li> <li>• 1 - 現行セッションでユーザーによって作成されたグローバル変数はすべて、セッションの終了時に破棄されます。現行セッションでユーザーによって編集されたグローバル変数はすべて、以前の状態に復元されます。</li> <li>• 2 - 現行セッションでユーザーによって作成または編集されたグローバル変数はすべて、セッションの終了時に保存されます。ただし、LIFETIME パラメーターが CURRENT に設定されたグローバル変数は破棄されることに注意してください。これがデフォルト値です。</li> </ul>

## DSQDC グローバル変数

DSQDC で始まる名前のグローバル変数は、情報の表示方法を制御します。

以下の DSQDC グローバル変数が使用可能です。

名前	長さ	説明
DSQDC_COL_LABELS	1	標準報告書の列見出しに列名とデータベース・ラベルのどちらを表示するかを指定します。値は、列見出しに列名を表示する場合は 0、列見出しにデータベース・ラベルを表示する場合は 1 です。デフォルト値は 1 です。
DSQDC_CURRENCY	18	DC 編集コードが指定されたときに使用するカスタム通貨記号を定義します。
DSQDC_DISPLAY_RPT	1	プロシージャ内の RUN QUERY コマンドの後に報告書を表示するかどうかを指定します。値は報告書を表示しない場合は 0、自動的にデフォルト書式で報告書を表示する場合は 1 です。デフォルト値は 0 です。
DSQDC_LIST_ORDER	2	<p>これは、データベース・オブジェクト・リストにあるオブジェクトのデフォルト・ソート順序を指定します。この変数の有効値は、ブランク・スペースを間に入れずに続けて入力された 2 文字の組み合わせです。最初の文字の有効値は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 リストはデフォルト順でソートされます。</li><li>2 リストはオブジェクト所有者でソートされます。</li><li>3 リストはオブジェクト名でソートされます。</li><li>4 リストはオブジェクト・タイプでソートされます。</li><li>5 リストは変更日でソートされます。</li><li>6 リストは最終使用日でソートされます。</li></ol> <p>2 番目の文字の有効値は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>A リストは昇順でソートされます。</li><li>D リストは降順でソートされます。</li></ol> <p>この変数は、LIST コマンドの結果としてリストされたオブジェクトにのみ適用されます。この変数は、他の手段で作成されたリストには適用されません。</p>
DSQDC_POS_SQLCODE	1	<p>データベースから正の SQL コードが返された場合にどうなるかを指定します。指定可能な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 0 - メッセージのログ記録もメッセージ・テキストの表示も行いません。</li><li>• 1 - SQL コードに関連付けられたメッセージをログに記録します。</li><li>• 2 - SQL コードに関連付けられたオンライン・ヘルプを表示します。</li></ul>

---

## DSQCP グローバル変数

DSQCP で始まる名前のグローバル変数は、表エディターの操作を制御します。

以下の DSQCP グローバル変数が使用可能です。

名前	長さ	説明
DSQCP_TEDFLT	1	列のデフォルト値を示すために表エディターで使 される予約文字を定義します。デフォルト値は "+" です。
DSQCP_TENULL	1	列のヌル値を示すために表エディターで使 される予約文字を定義します。デフォルト値は "-" です。

---

## 付録 E. SQL エディターの行コマンド

SQL エディター域で行を挿入、削除、コピー、および位置変更するには、行コマンドを使用します。行コマンド域はエディター域の左にあります。

### INSERT

INSERT 行コマンドは 1 つ以上の空白行を挿入します。INSERT 行コマンドで使用される構文は以下のとおりです。

**I**       これは空白行を 1 行挿入します。

**I<n>**   これは、I 文字でマークされている行の後ろに <n> 行の空白行を挿入します。

### DELETE

DELETE 行コマンドは 1 つ以上の行を削除します。DELETE 行コマンドで使用される構文は以下のとおりです。

**D**       これは 1 行を削除します。

**D<n>**   これは、D 文字でマークされた行を起点にして <n> 行を削除します。

### DD ... DD

これは、2 つの DD コマンドの間にあるすべての行 (DD コマンドが入力された行を含む) を削除します。

### COPY

COPY 行コマンドは 1 つ以上の行をコピーして、指定された行の前または後ろに貼り付けます。COPY 行コマンドで使用される構文は以下のとおりです。

### C A/B

これは、C 文字でマークされた行をコピーし、A 文字でマークされた行の後、または B 文字でマークされた行の前に貼り付けます。

### C<n> A/B

これは、C 文字でマークされた行を起点にして <n> 行をコピーし、A 文字でマークされた行の後ろ、または B 文字でマークされた行の前に貼り付けます。

### CC ... CC A/B

これは、2 つの CC コマンドの間にあるすべての行 (CC コマンドが入力された行を含む) をコピーし、A 文字でマークされた行の後ろ、または B 文字でマークされた行の前に貼り付けます。

### REPEAT

REPEAT 行コマンドは 1 つ以上の行を複製します。REPEAT 行コマンドで使用される構文は以下のとおりです。

**R**       これは 1 行を複製します。

**R<n>** これは、R 文字でマークされた行のコピーを <n> 行挿入します。

**RR ... RR**

これは、RR コマンドが入力された複数の行と、その間にあるすべての行を複製します。

**RR ... RR<n>**

これは、複数の RR コマンドで囲まれた行のコピーを <n> 行挿入します。

## **MOVE**

MOVE 行コマンドは 1 つ以上の行を位置変更します。MOVE 行コマンドで使用される構文は以下のとおりです。

**M A/B**

これは、M 文字でマークされた行を、A 文字でマークされた行の後ろ、または B 文字でマークされた行の前に配置します。

**M<n> A/B**

これは、M 文字でマークされた行を起点にして <n> 行を、A 文字でマークされた行の後ろ、または B 文字でマークされた行の前に配置します。

**MM ... MM A/B**

これは、2 つの MM コマンドの間にあるすべての行 (MM コマンドが入力された行を含む) を、A 文字でマークされた行の後ろ、または B 文字でマークされた行の前に配置します。



---

## 付録 F. QMF 取扱コード

報告書を作成するときは、列ごとに取扱コードを指定します。取扱コードは、列内のデータに対して実行される操作を指定します。

### ACROSS

これは、水平な制御の切れ目を含む報告書を生成します。以下のことに注意してください。

- 報告書の列の数とタイトルは、ACROSS 列の値によって決まります。ACROSS 列の値ごとに報告書列が 1 セットのみ存在します。列の値が各報告書列の見出しになります。報告書列のセットには、集約取扱コード (SUM、AVERAGE、COUNT など) を使用する計算列が列ごとに含まれています。
- ACROSS 列は 1 つの報告書に 1 つのみ組み込むことができます。
- 取扱コード CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT は、ACROSS 取扱コードも使用する報告書が生成される場合にのみ部分的にサポートされます。

### AVERAGE

これは、列にあるすべての値を分析して平均を計算します。計算値は、報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。この取扱コードは数値データのみ有効です。

### BREAK<sub>n</sub>

これは、制御の切れ目レベルを提供します。記号「n」は 1 から 6 までの数値を表します。例えば、BREAK1 取扱コードはレベル 1 の切れ目の制御列を指定し、BREAK2 はレベル 2 の切れ目の制御列を指定します。その列の値が変更すると報告書のセクションの切れ目が発生します。列の取扱コードが集約タイプの取扱コードである場合は、小計が表示されます。また、「Form.Break」パネルで指定されている切れ目テキストが表示されます。

### BREAK<sub>n</sub>X

制御列が報告書から省略されることを除いて、BREAK<sub>n</sub> と同じです。

### CALC<sub>id</sub>

これは、「Form.Calculations」パネルで計算式を評価します。「id」部分は計算式の ID を表します。

### COUNT

これは、列に含まれる NULL 以外の値をカウントします。計算された値は編集コード K で形式設定されて報告書で合計として表示されます。

**CPCT** これは、列の各値の累積を現在の合計に対する比率として計算します。

### CSUM

これは列の値の累計を計算します。計算値は各明細行の値を置き換えて、また報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。CSUM 取扱コードは、ACROSS 取扱コードも使用する報告書の生成時に部分的にサポートされるだけです。

**FIRST**

列の最初の値。計算値は、報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。

**GROUP**

列の値の各セットごとに合計データを 1 行だけ表示します。複数の列で、取扱コード **GROUP** を使用できます。その場合、いずれかの列で値が変化すると新しいグループが開始されます。取扱コードのないその他の列はすべて報告書から省略されます。

**LAST** 列の最後の値です。計算値は、報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。

**MAXIMUM**

列の最大値です。計算値は、報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。

**MINIMUM**

列の最小値です。計算値は、報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。

**OMIT**

報告書から列を除外します。

**PCT** これは、列の各値を現在の合計に対する比率として計算します。計算値は各明細行の値を置き換えて、また報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。PCT 取扱コードは、ACROSS 取扱コードも使用する報告書の生成時に部分的にサポートされるだけです。

**STDEV**

これは列の値の標準偏差を計算します。この取扱コードは数値データのみ有効です。計算値は、報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。

**SUM** これは列の値の合計を計算します。この取扱コードは数値データのみ有効です。計算値は、報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。

**TPCT** これは、列の各値を最終合計に対する比率として計算します。計算値は各明細行の値を置き換えて、また報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。TPCT 取扱コードは、ACROSS 取扱コードも使用する報告書の生成時に部分的にサポートされるだけです。

**TCPCT**

これは、列の各値の累積を最終合計に対する比率として計算します。計算値は各明細行の値を置き換えて、また報告書の合計として表示されます。計算値は、その列の編集コードでフォーマットされています。TCPCT 取扱コードは、ACROSS 取扱コードも使用する報告書の生成時に部分的にサポートされるだけです。

---

## 付録 G. QMF 編集コード

編集コードは、報告書の特定列に含まれるデータを形式設定したりそのデータに句読点を付けたりする方法を QMF に伝える文字セットです。編集コードはデータベース内のデータを変更するものではなく、データの表示方法を制御するにすぎません。QMF 編集コードの完全なリストを以下に示します。

### 文字データの編集コード

報告書のテキスト・フィールドを形式設定するには、文字データの編集コードを使用します。

- C** 文字データを表示します。
- CW** 列幅に基づき、文字データを折り返して表示します。値が列において 1 行に収まらない場合は、可能な限り多くのデータが列内に配置され、収まりきらなかったデータは折り返されて列の後続行に配置されます。
- CT** 列のテキストに基づき、文字データを折り返して表示します。値が列において 1 行に収まらない場合は、可能な限り多くのデータが列内の 1 行に配置され、テキスト内で空白が見つかったところでテキストが折り返されて残りのデータが列の後続行に配置されます。テキスト・ストリングが長すぎて列に合わず、空白を含まない場合、データは空白が検出されると列幅で折り返されます。
- CDx** 指定された区切り文字に基づき、文字データを折り返して表示します。値が列において 1 行に収まらない場合は、列においてテキスト内で特殊区切り文字が見つかるたびにデータが改行されます。テキスト・ストリングが長すぎて列に合わず、区切り文字を含まない場合、データは区切り文字が検出されると列幅で折り返されます。"x" で指定される区切り文字は、単一の文字で、空白でもかまいません。区切り文字は、報告書には表示されません。
- X** データを一連の 16 進文字としてフォーマットします。
- XW** データを列幅を基にして折り返された一連の 16 進文字としてフォーマットします。列は CW 編集コードに指定された規則にしたがって折り返されます。
- B** データを連続する 0 と 1 としてフォーマットします。
- BW** データを列幅を基にして折り返された連続する 0 と 1 としてフォーマットします。列は CW コードに指定された規則に従って折り返されます。

### 日付データの編集コード

日付情報が含まれるフィールドを形式設定するには、日付データの編集コードを使用します。日付データ編集コードの文字 "x" は、日付値の区切り文字として使用する文字を表します。「x」の値は、文字や数字を除く空白など任意の特殊文字にすることができます。

**TDYx** 年 (4 桁)、月、日。

- TDMx** 月、日、年 (4 桁)。
- TDDx** 日、月、年 (4 桁)。
- TDYAx** 年 (下 2 桁)、月、日。
- TDMAx** 月、日、年 (下 2 桁)。
- TDDAx** 日、月、年 (下 2 桁)。
- TDL** データを要求するデータベース・サーバーで、デフォルトとして指定された形式に従って日付をフォーマットします。
- TD** 結果セット報告書に現れる編集コード。ここで述べている報告書とは、ストアード・プロシージャ CALL から生成される報告書のことで、これは、データが ISO 形式ではない場合に時刻データや日付データに使用されます。これらの編集コードが列データで見つかった場合、その列の編集コードは変更できません。また、この編集コードが書式に存在する場合、報告書オブジェクトをエクスポートすることはできません。

### グラフィック・データの編集コード

グラフィック情報や純粋な DBCS 情報が含まれるフィールドを形式設定するには、グラフィック・データの編集コードを使用します。

- G** グラフィック・データを表示します。
- GW** 列幅に基づき、グラフィック・データを折り返して表示します。値が列において 1 行に収まらない場合は、可能な限り多くのデータが列内に配置され、収まりきらなかったデータは折り返されて列の後続行に配置されます。

### 数値データの編集コード

数値情報が含まれるフィールドを形式設定するには、数値データの編集コードを使用します。数値データの編集コードの文字 "nn" は、0 から 99 までの間の数を表します。この数字は、小数点以下何桁までを許可するかを決定します。小数点以下の桁数が多い数字は丸められ、桁数が少ない数字は埋め込まれます。

- E** 数字を浮動小数で表示します。列の幅がさらに大きい場合でも、有効数字 17 桁まで、または拡張浮動小数点データの編集時には有効数字 34 桁まで表示されます。データ・タイプ FLOAT の列のデフォルト書式として使用されます。
- EZ** 列内のゼロ値を抑止して、数字を浮動小数で表示します。列の幅がさらに大きい場合でも、有効数字 17 桁まで、または拡張浮動小数点データの編集時には有効数字 34 桁まで表示されます。
- Dnn** 負の符号、3 桁ごとの区切り、および通貨記号でフォーマットされた数字を 10 進表記で表示します。
- DZnn** 負の符号、3 桁ごとの区切り、通貨記号を使用し、列内のゼロ値を抑止してフォーマットされた数字を 10 進表記で表示します。

**DCnn** 負の符号、3 桁ごとの区切り、およびユーザー定義の通貨記号でフォーマットされた数字を 10 進表記で表示します。標準通貨記号の代わりに使用される通貨記号が、グローバル変数 `DSQDC_CURRENCY` を使用して定義されます。

#### **DZCnn**

負の符号、3 桁ごとの区切り、ユーザー定義の通貨記号を使用し、列内のゼロ値を抑制してフォーマットされた数字を 10 進表記で表示します。標準通貨記号の代わりに使用される通貨記号が、グローバル変数 `DSQDC_CURRENCY` を使用して定義されます。編集コード・オプション "Z" と "C" の両方が使用される場合、"C" は "Z" の後で使用されなければなりません。

**Inn** 先行ゼロ表示および負の符号でフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**IZnn** 先行ゼロ表示、および負の符号を使用し、列内のゼロ値を抑制してフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**Jnn** 先行ゼロ表示でフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**JZnn** 先行ゼロ表示を使用し、列内のゼロ値を抑制してフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**Knn** 負の符号、および 3 桁ごとの区切りでフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**KZnn** 負の符号、および 3 桁ごとの区切りを使用し、列内のゼロ値を抑制してフォーマットされた数字を 10 進表記で表示します。

**Lnn** 負の符号でフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**LZnn** 負の符号を使用し、列内のゼロ値を抑制してフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**Pnn** 負の符号、3 桁ごとの区切り、および % 記号でフォーマット設定された数字を 10 進表記で表示します。

**PZnn** 負の符号、3 桁ごとの区切り、% 記号を使用し、列内のゼロ値を抑制してフォーマットされた数字を 10 進表記で表示します。

### 時刻データの編集コード

時刻情報が含まれるフィールドを形式設定するには、時刻データの編集コードを使用します。時刻データの編集コードの文字 "x" は、時刻値の区切り文字として使用する文字を表します。「x」の値は、文字や数字を除く任意の文字 (スペースを含む) にすることができます。

**TTSx** 秒数を含む 24 時間表示。

**TTCx** 秒数を含む 12 時間表示。

**TTAx** 秒数を除く 24 時間表示。

#### **TTAN**

秒数を除く 24 時間表示。時間と分の上に区切り文字はありません。

**TTUx** USA 形式 (HHxMM PM、HHxMM AM)。

**TTL** データを要求するデータベース・サーバーで、ローカル・デフォルトとして指定された形式に従って時刻データを形式設定します。

**TT** 結果セット報告書に現れる編集コード。ここで述べている報告書とは、ストアード・プロシージャ CALL から生成される報告書のことで、これらのコードは、データが ISO 形式ではないことが判明した場合に時刻または日付データで使用されます。これらの編集コードが列データで見つかった場合、その列の編集コードは変更できません。また、この編集コードが書式に存在する場合、報告書オブジェクトをエクスポートすることはできません。

## タイム・スタンプ・データの編集コード

タイム・スタンプ情報が含まれるフィールドを形式設定するには、タイム・スタンプ・データの編集コードを使用します。

**TSI** yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnn。yyyy は 4 桁の年です。mm は 2 桁の月です。dd は 2 桁の日です。hh は 2 桁の時間です。mm は 2 桁の分です。ss は 2 桁の秒です。nnnnnnnnnnnn は 12 桁の秒の小数部です。

**TSZ** yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnn±th:tm。yyyy は 4 桁の年です。mm は 2 桁の月です。dd は 2 桁の日です。hh は 2 桁の時間です。mm は 2 桁の分です。ss は 2 桁の秒です。nnnnnnnnnnnn は 12 桁の秒の小数部です。±th はタイム・ゾーンの時間を表す 2 桁の値であり、UTC を基準にしたオフセットで示されます。tm はタイム・ゾーンの分を 0 から 59 までで表す 2 桁の値です。

注: UTC を指定するには、-24:00 または +24:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

## ユーザー定義の編集コード

ユーザー定義の編集コード Uxxxx および Vxxxx を特別な目的のために使用できます。値「xxxx」は、組み込みブランク以外の、文字の任意の組み合わせです。以下のユーザー編集コードが定義済みです。

**VSSN** または **USSN**  
社会保障番号の形式 (xxx-xx-xxxx)。

**VTEL** 電話番号の形式 ((xxx) xxx-xxxx)。

**VTEL2**  
電話番号の形式 (xxx.xxx.xxxx)。

**VZIP** 郵便番号の形式 (xxxxx-xxxx)。

## メタデータの編集コード

実際のデータではなく報告書の列の記述データを表示するには、メタデータの編集コード M を使用します。列のメタデータが記述子域 (DA) で検出され、列に含まれるデータのタイプおよび長さで構成されます。編集コード M の列が NULL である場合、メタデータではなく NULL 標識が表示されます。列がメタデータを表示するために必要なサイズよりも小さい場合、メタデータは列のスペースに合うように切り捨てられます。

---

## 付録 H. QMF パネルの ID

### フルスクリーン・パネル

#### **Form.Main** パネル

パネル ID は FQMPFMAN です。

#### **Form.Break** パネル

パネル ID は FQMPFBRK です。

#### **Form.Calculations** パネル

パネル ID は FQMPFCLC です。

#### **Form.Columns** パネル

パネル ID は FQMPFCOL です。

#### **Form.Conditions** パネル

パネル ID は FQMPFCON です。

#### **Form.Detail** パネル

パネル ID は FQMPFDET です。

#### **Form.Final** パネル

パネル ID は FQMPFFIN です。

#### **Form.Options** パネル

パネル ID は FQMPFOPT です。

#### **Form.Page** パネル

パネル ID は FQMPFPAG です。

### グローバル・パネル

パネル ID は FQMPGLOB です。

### ホーム・パネル

パネル ID は FQMPHOME です。

### キー・パネル

パネル ID は FQMPKEYS です。

### オブジェクト・リスト・パネル

パネル ID は FQMPOBJL です。

### プロシージャ・エディター・パネル

パネル ID は FQMPPEDT です。

### 照会エディター・パネル

パネル ID は FQMPQEDT です。

### 指示照会エディター・パネル

パネル ID は FQMPQRY です。

### 結果パネル

パネル ID は FQMPRSLT です。

### 報告書パネル

パネル ID は FQMPRPRT です。

表エディター・パネル

パネル ID は FQMPTBED です。

## 非フルスクリーン・パネル

製品情報パネル

パネル ID は FQMPABOT です。

アクション・パネル

パネル ID は FQMPACTE です。

<object\_name> に対するアクション・パネル

パネル ID は FQMPOACT です。

大域変数追加パネル

パネル ID は FQMPGLAD です。

行の追加パネル

パネル ID は FQMPTEAD です。

配置パネル

パネル ID は FQMPFCAL です。

アテンション割り込みパネル

パネル ID は FQMPATTN です。

バッチ・リスト・パネル

パネル ID は FQMPBTLT です。

バッチ・ウィザード - 共通パラメーター・パネル

パネル ID は FQMPBTD4 です。

バッチ・ウィザード - メイン・パラメーター・パネル

パネル ID は FQMPBTD1 です。

バッチ・ウィザード - **PROC** のパラメーター・パネル

パネル ID は FQMPBTDP です。

バッチ・ウィザード - 照会のパラメーター・パネル

パネル ID は FQMPBTDQ です。

バッチ・ウィザード - 報告書パラメーター・パネル

パネル ID は FQMPBTD3 です。

バッチ・ウィザード - **SMTP** 設定パネル

パネル ID は FQMPBTD5 です。

列パネル

パネル ID は FQMPQCE です。

列記述パネル

パネル ID は FQMPCOLD です。

列リスト・パネル

パネル ID は FQMPQCL です。

コマンド・パネル

パネル ID は FQMPCMDS です。

コマンド・プロンプト・パネル

パネル ID は FQMPCMPD です。



比較演算子パネル  
パネル ID は FQMPQOE です。

比較演算子パネル  
パネル ID は FQMPQCO です。

比較演算子: 間パネル  
パネル ID は FQMPQOB です。

接続先パネル  
パネル ID は FQMPCNDS です。

データ・ソースの説明パネル  
パネル ID は FQMPDSDS です。

データ・ソース・オブジェクト・パネル  
パネル ID は FQMPFOB1 です。

定義パネル  
パネル ID は FQMPFCDF です。

行の編集パネル  
パネル ID は FQMPTEED です。

**JCL** のエクスポート・パネル  
パネル ID は FQMPJEXP です。

お気に入りのアクション・パネル  
パネル ID は FQMPACTS です。

お気に入りのオブジェクト・パネル  
パネル ID は FQMPFAVS です。

書式切れ目番号パネル  
パネル ID は FQMPSPBK です。

データ・ソースからパネル  
パネル ID は FQMPFOB2 です。

書式詳細バリエーション・パネル  
パネル ID は FQMPSPDV です。

開いているオブジェクトからパネル  
パネル ID は FQMPFOB4 です。

リポジトリからパネル  
パネル ID は FQMPFOB3 です。

ヘルプ・パネル  
パネル ID は FQMPHELP です。

ヘルプの目次  
パネル ID は FQMPMGSB です。

**JavaScript** プロシージャ・プロンプト・パネル  
パネル ID は FQMPPRMT です。

結合パネル  
パネル ID は FQMPQJE です。

列の結合パネル  
パネル ID は FQMPPQJC です。

キー・エディター・パネル  
パネル ID は FQMPKDLG です。

リスト・パネル  
パネル ID は FQMPLOCS です。

ログイン・パネル  
パネル ID は FQMPAUTH です。

オブジェクトの説明パネル  
パネル ID は FQMPDSC です。

プロンプト・パネル  
パネル ID は FQMPMSGB です。

プロンプト変数パネル  
パネル ID は FQMPVARS です。

照会番号パネル  
パネル ID は FQMPSPQN です。

リポジトリの説明パネル  
パネル ID は FQMPREPD です。

最近使用したオブジェクト・パネル  
パネル ID は FQMPRCUS です。

結果セット番号パネル  
パネル ID は FQMPSPRS です。

行条件パネル  
パネル ID は FQMPQRC です。

オブジェクトの保存パネル  
パネル ID は FQMPVOB です。

画面テスト・パネル  
パネル ID は FQMPSTST です。

検索パネル  
パネル ID は FQMPTESD です。

データ・ソースの設定パネル  
パネル ID は FQMPSTDS です。

データ・ソースを選択パネル  
パネル ID は FQMPSLDS です。

リポジトリの選択パネル  
パネル ID は FQMPSERP です。

オブジェクトの選択パネル  
パネル ID は FQMPOBLD です。

フィールドの表示パネル  
パネル ID は FQMPSHFD です。

大域変数の表示パネル

パネル ID は FQMPGLSH です。

オブジェクト・リストのソート・パネル

パネル ID は FQMPOSRT です。

ソート条件パネル

パネル ID は FQMPPQSE です。

指定パネル: **Form.Columns**

パネル ID は FQMPFCSP です。

指定パネル: 指示照会

パネル ID は FQMPPQSC です。

リポジトリの切り替えパネル

パネル ID は FQMPSRVR です。

表パネル

パネル ID は FQMPPQTE です。

ウィンドウ・パネル

パネル ID は FQMPODOC です。

ワークスペースの説明パネル

パネル ID は FQMPWSDS です。



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J46A/G4  
555 Bailey Avenue  
San Jose, CA 95141-1003  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

---

## 製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**適用条件:** IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

**権利:** ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

---

## プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。



## 用語集

用語集には、製品で使用される用語の要旨が記されています。

**アクセシビリティ (accessibility).** 運動障害や視覚障害など身体に障害を持つユーザーがコンピューターを快適に使用できるようにサポートする機能です。

**バッチ・オブジェクト (batch objects).** バッチ・オブジェクトは、JCL バッチ・ジョブの作成に使用されるパラメーターのセットです。

**計算列 (calculated columns).** 照会結果に追加されるデータの列です。

**報告書 (reports).** データ・ソースと書式テンプレートとして、照会結果を使用して生成される、テキスト・ベースの表形式の報告書です。

**コマンド行 (command line).** 一種のインターフェース。ユーザーはこのインターフェースからコマンドを入力して QMF アプリケーションと対話できます。

**データ・ソース (data sources).** データ・ソースは、データベースにアクセスするための接続情報を格納する QMF エンティティです。

**フォーマット・オプション (formatting options).** 照会結果をエディター・ウィンドウに表示する方法をカスタマイズできます。フォーマット・オプションは、列全体、個々のセル、列見出し、および要約セルに適用できます。列およびセルのフォーマット設定が条件式の結果に基づいて適用されるように指定することもできます。

**書式 (forms).** 書式はオブジェクトと見なされ、リポジトリ、QMF カタログ、またはファイルに保存できます。保存された書式オブジェクトを開いたときは、報告書を生成するために書式オブジェクトを実際に行っていることとなります。書式を開くと、現在アクティブな照会結果がデータ・ソースとして自動的に使用されます。

**グローバル変数 (global variables).** グローバル変数は、QMF の現行セッションがアクティブである期間中、アクティブであり続ける変数です。これは、オブジェクト (照会、プロシージャー、書式) の実行中のみアクティブである置換変数とは対照的です。グローバル変数を使用するオブジェクトの場合、グローバル変数に現在定義されている値が使用されます。

**グループ化および集約 (grouping and aggregation).** 照会結果列にグループ化および集約のオプションを適用して、結果データを論理グループまたは要約グループに編成できます。グループ化および集約を追加することにより、データの要約情報の取得と、データのより論理的な表示を自動的に行えます。

**LOB データ (LOB data).** ラージ・オブジェクト (LOB) とは、Db2 for z/OS および Db2 for UNIX® のデータ・タイプであり、テキスト、マルチメディア、画像、ビデオ、写真、音声などの非従来型データや、あらゆる大規模データ・ファイルをデータベース表内に格納するためのデータ・タイプです。LOB データを検索または保存する際には、大量のリソースが消費されることがあります。

**オブジェクト・キー (object key).** すべてのデータベース・オブジェクトに付与される固有 ID。特定のオブジェクトのオブジェクト・キーを表示するには、「オブジェクト・リスト」パネルにアクセスし、オブジェクトにカーソルを置いて、「説明」ファンクション・キーを押します。

**プロシージャー (procedures).** 照会の実行、報告書の印刷、データのインポートとエクスポート、および他のアクションの実行が可能なコマンドのセットです。

**指示照会エディター (Prompted Query Editor).** 指示照会エディターを使用して照会を作成する場合は、表だけでなく、結合情報、列情報、ソート情報、および行情報も指定します。そうすると、指示照会エディターによって構造化照会言語 (SQL) ステートメントが作成されます。

**QMF カタログ (QMF catalogs).** 保存されたオブジェクト (照会、プロシージャー、書式)、ユーザー・リソース限界とプロファイル、報告書、およびその他の各種設定と情報が含まれているデータベース表のセットです。QMF カタログは、Db2 データベースをホストするデータベース・サーバー上にあります。

**照会エディター (Query Editor).** ワークスペース内でアクセス可能なすべてのデータベース表を開くことができるインターフェースです。

照会パラメーター (**query parameters**). 照会パラメーターには、照会に送信され、実行時に使用される値が含まれます。

リレーショナル照会 (**relational query**). 照会とはデータ・ソースに情報を要求することです。リレーショナル・データ・ソースに情報を要求する場合、照会は SQL ステートメントを使用して作成されます。

SQL 照会エディター (**SQL Query Editor**). SQL に経験があるユーザーの場合、「SQL 照会」エディターに自分で SQL ステートメントを入力することにより、照会を作成する方法があります。単一の結果セットを戻す単一の SQL ステートメントでも、複数の結果セットを戻す複数の SQL ステートメントでも書くことができます。

置換変数 (**substitution variables**). 置換変数は、実行時に変更値を SQL 照会に入力するのに使用します。この機能により、SQL ステートメントの一部を置換して、これをより汎用的なものにすることができます。置換変数がアクティブになるのは、オブジェクト (照会、プロシージャー、またはフォーム) が実行されている間に限られます。その結果、1 つのオブジェクトのみが置換変数にアクセスすることができます。この変数は、オブジェクトの実行後は存在しなくなります。

表エディター (**Table Editor**). ワークスペース内でアクセス可能なすべてのデータベース表を開くことができるインターフェースです。

取扱コード (**usage codes**). 取扱コードは、列のデータに関する合計情報を提供します。例えば、取扱コードは列の終わりで総合計情報を提供したり、表の制御の切れ目で部分的な合計情報を提供することができます。使用可能な取扱コードは列のデータと合計のタイプによって異なります。

ワークスペース (**workspaces**). アクセスできるすべてのデータ・ソースおよびオブジェクトは、管理者によって定義済みの 1 つ以上のワークスペースに入れられます。

## 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [ア行]

アクセシビリティ 25  
オブジェクトの保存 10

### [カ行]

既存の実行  
照会 14  
行コマンド 95  
グローバル変数 6  
DSQAO 85  
DSQCP 94  
DSQDC 93  
DSQEC 88  
DSQQW 79  
グローバル変数のデフォルト値を編集 7

### [サ行]

サービス情報 v  
作業  
照会 13  
データベース表 19  
バッチ・オブジェクト 20, 22  
フォルダー 11  
プロシージャ 17, 18  
作成  
バッチ・オブジェクト 20  
プロシージャ 18  
報告書 15  
ユーザー定義のグローバル変数 6  
サポート情報 v  
指示照会エディター  
照会の作成 13  
システム・グローバル変数表 79  
照会  
作成 13  
照会の作成  
指示照会エディター 13  
SQL エディター 13  
接続  
データ・ソース 10  
リポジトリ 9

### [タ行]

特記事項  
リーガル 109  
トラブルシューティング 27  
取扱コード 97

### [ハ行]

ファンクション・キーのカスタマイズ 5  
編集  
データベース表 19  
編集コード 99

### [ラ行]

リポジトリおよびデータ・ソース 9  
リンク  
IBM 以外の Web サイト 111

## A

actions コマンド 29  
add コマンド 29

## B

backward コマンド 30  
batch コマンド 30  
bottom コマンド 31

## C

change コマンド 31  
check コマンド 31  
clear コマンド 32  
close コマンド 32  
connect コマンド 32  
convert コマンド 33  
create コマンド 34

## D

delete コマンド 35  
describe コマンド 36  
display コマンド 36  
draw コマンド 38  
DSQAO 85  
DSQCP 94

DSQDC 93  
DSQEC 88  
DSQQW 79

## E

edit コマンド 38  
end コマンド 39  
erase コマンド 39  
exit コマンド 40  
export コマンド 41

## F

favorite コマンド 45  
forward コマンド 46

## H

help コマンド 46

## I

import コマンド 47  
insert コマンド 49  
ispf コマンド 50

## L

left コマンド 50  
limit local コマンド 51  
list コマンド 51

## M

mail to コマンド 53

## Q

QMF オブジェクトへのアクセス 10  
QMF 環境におけるアクセシビリティ 25  
QMF でのナビゲーション 25  
QMF トレース機能 27  
QMF パネルの ID 103

## R

refresh コマンド 56  
rename コマンド 57  
reset global コマンド 59  
reset key コマンド 59  
reset コマンド 57  
retrieve コマンド 60  
right コマンド 61  
run コマンド 61  
runtso コマンド 64

## S

save as コマンド 66  
save コマンド 69  
search コマンド 69  
set global コマンド 69  
set invisible コマンド 70  
set key コマンド 71  
set local with values コマンド 72  
set local コマンド 71  
set options コマンド 72  
show コマンド 73  
sort コマンド 74  
specify コマンド 75  
SQL エディター 95  
    照会の作成 13  
SQL エディターの行コマンド 95  
switch comment コマンド 76  
switch コマンド 76

## T

top コマンド 77  
tso コマンド 77

## U

use repository コマンド 78





プログラム番号: 5697-QM2  
5650-DB2  
5615-DB2

Printed in Japan

GC43-4730-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21